

445375

645.2

H557

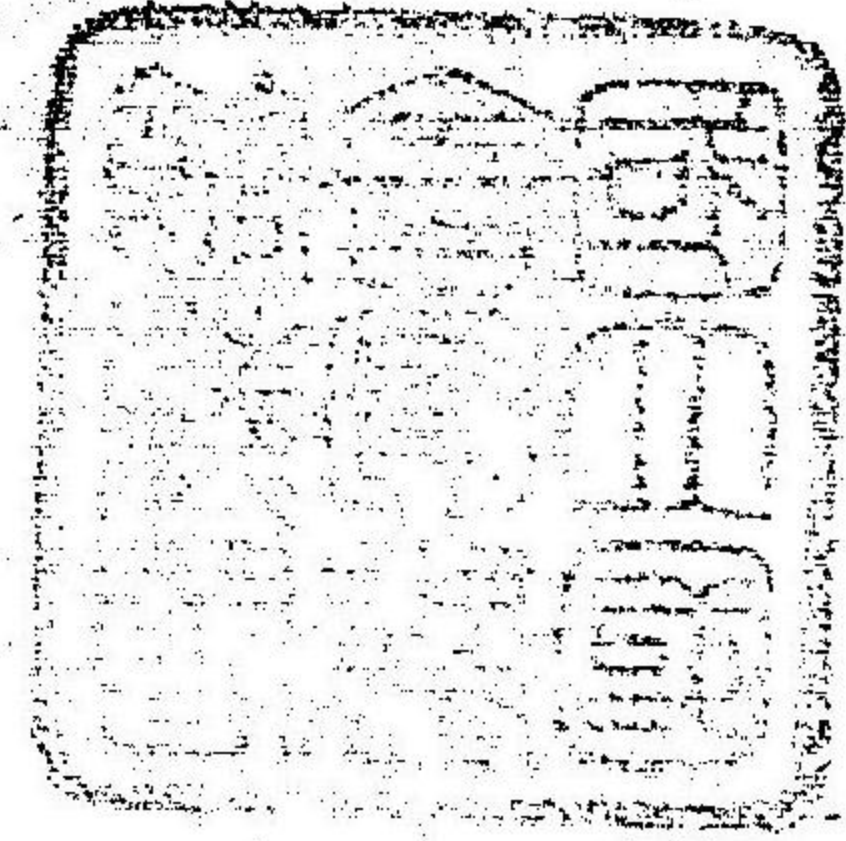
奧隅馬誌

故廣澤安任翁述

奧隅馬誌 全

協贊會發行

645.2
H590



218922

序

題シテ奥隅トイフモノハ古來奥馬ト稱シ名アルモノ相馬三春仙台ヨリ南部ニ至ル
マテ皆然リ中ニ就テ此篇南部舊管内殊ニ奥ノ北隅ナル九牧場ヲ主トセシ故ナリ
篇中寶曆年後ニ詳カナルモノハ南部家ノ御野馬別當一戸五右衛門氏ノ舊記アリテ
此ハ南部家牧場創立後擧クベキ事ハ略見エ其勤中寶曆五年ヨリ明和六年ニ至ルマ
デ頗ル明記セリ後ニ享和二年御野馬別當松尾紋左衛門氏ノ書拔アリ一戸氏ノ記ニ
據テ畧記シ併テソノ勤中ノ事ニ及フ蓋シ一戸氏ハ徳川有徳公勵精開産ノ後影響恰
モ南部家ニ及フニ際會シ其人選ニ當リ馬産盛殖ノ業此ヨリ一振シ中興ノ祖トモイ
フヘキナリ松尾氏ハ勤績三世多ク舊慣ニ仍レリ此時治已ニ大ニク政體因循ヲ尙ヒ
專ラ失事ナキヲ要セシモノナリ今兩氏ノ記ヲ以テ骨子トシ加ルニ見聞スル所ヲ以
テシ以テ編述セシナリ

馬ヲ造ルニ要件多シ曰産出ナリ曰育成ナリ曰鑿相ナリ曰演習ナリ曰醫部ナリソノ
一要件即チ一専門ナリ此數多ノ手ヲ經ルアリテ始テ馬ノ器ヲ成ヌヲ得ベシ藩政此
地ヲ以テ産出ノ叢窟トス余カ業モ亦然リ故ニ編述ノ意モ亦此ニアリシナリ

篇中藩牧ト民牧トヲ分ツト雖モ泛然馬ノ生産上ニ係ル件ハ或ハ藩牧ニテ併述セシ
如キハ言ヲ立ルノ次序自ラ然ルナリ

亞刺比亞馬ハ天然ノ良ニ因テ器ヲ成シ英馬トイヒ佛馬トイヒ米馬トイフ如キ人爲
ヲ以テ換骨奪體セシナリ幸ニ人爲ノ開明此ノ如シ今我邦ニ於テ此ノ業ニ從事セン
ト欲セハ經驗ノ參照スヘキ無ルヘケンヤ此篇ノ微志モ亦此ニ在ルナリ

篇中奥隅ノ正跡ニ拘ラスシテ本文ニ縁アル事ハ行ヲ下ケ因ニ云又云ヲ以テ之ヲ記
ス只余學識無ク僻村ニシテ書籍聞見共ニ乏シク經驗モ亦未タ確ナラザルヲ多シ自
ラ極テ疎漏アルヲ知レテ看官夫レ之レヲ正セ

編成テ一讀ノ際人ノ注意ヲ呼フベキ主眼ヲ擧ケ或ハ不足ノ意ヲ補ヒ之ヲ欄外ニ表
記ス

明治廿年三月十三日谷地頭牛鳴馬嘶ノ陋居ニ於テ書了ル時ニ東京郵報主馬寮ヨリ
洋良馬筑波號ヲ貸下給ハリシ旨ノ吉報ニ接スルヲ得タリ併テ以テ記ヌ云

編述者 安任手記

奥隅馬誌

斗南 廣澤安任述



奥隅ノ馬誌ヲ述ルニ方テ遡テ往古我邦ノ馬種ヲ考ヘント欲レモ遡乎トシテ證トスヘキ無キナリ然レモ
日ノ神代ノ最初ニ在テ牛馬ハ某神ノ頂ヨリ化ストイヒ又目ヨリ化ストモイヒ御馬ノ鞍トイヒ又牛肉ヲ
食フトイフ等ノコトアリハ皇第一世神武天皇ニ至テハ騎用ノ事牛酒ノ事等モ古事記古語拾遺日本記等
ニアルヲ見レハ牛馬ハ我邦ノ人類ト此開闢ヲ共ニシ固有創生ノ一種物ニシテ馬ハ己ニ駕御牛ハ食トナ
レルノ證アリトス此ヨリ神功皇后攝政ノ時ト應神天皇ノ時トニ百濟國ヨリ良馬ヲ貢セシ事アリ此レ外
國馬種ノ來リシ始ニシテ清寧天皇顯宗天皇欽明天皇等ノ頃ニハヒニ繁殖シテ百濟國へ賜リシ事ヒアリ
推古天皇ニ飾騎七十五疋ヲ出サレシナトハ騎用已ニ盛ナリシヲ見ルヘシ天智天皇ニ至テ近江ニ牧ヲ置
キ馬ヲ放タレシハ官牧ノ設アリシ證ナルヘシ文武天皇ニハ令シテ諸國ニモ及ホシ牧地ヲ定メテ牛馬ヲ
放シメ慶雲四年ニハ攝津伊勢等ノ二十三國ニ錢印ヲ給シ牧ノ胸積ニ印セシメラル又ソノ前後驛馬厰馬
ノ制ヲ設ケ兵馬司ヲ置キ左右馬寮ヲ始メ諸國ノ貢獻競馬大覽等マテ公私ノ牛馬ニ係ル制度ハ次第ニ備
ハル事トナリシナリ

因ニ云余曾テ馬蹄ノ化石ヲ見シ事アリ奥洲二戸郡末ノ松山ノ傍ニ化石多ク出ツソノ品ニハ貝類數種
蟹魚類及ヒ松毬等ノ陸ト海トノ産混出スルナリ偶々龜ト馬蹄ト出ツ因テ案スルニ龜ハ今現ニ其地ニ
産セス夫レ末ノ松山ハ古歌ニモ詠セシ名所ナルカ地勢ヲ以テ見レハ海ヲ距ル二三里幾重障ノ間ニ
アリ然ルニ海産ト陸産ト現ニ無キ處ト相混シ此ニ出ルモノハ我邦ノ地殼大變動以前ノ物タルヲ證ス
ベシサレハ馬ノ此地ニ産セシモ變動以前ノ殘物タルヤ亦測ルヘカラサルナリ記テ以テ識者ノ考案
ニ供フ

馬蹄化石ハ世
ニ無トイフヘ
カラス末ノ松
山ノ地勢以テ
前代ヲ証スベ
キナリ
(1)

又云我邦ノ古言今傳ラフ共物古クシテソノ名區々ナルモノアラシク馬ノ如キ或ハケノアラモノナド、
泛然名ツケシヤ又ミ、ノケモノト名ツケシヤ今時ニ傳レル書ハ後世漢字流人以來ノ記ニシテ馬ノ字
ヲ符シテウマト唱ルハ蟬ヲセミ錢ヲセントイヒシ類ナラン現北海道地名ニ漢字ヲ符スルニテ類推ス
ヘキナリ

陸羽未タ別レ
ザル前尾花澤
モ奥ニ屬ス

延喜式ニ據レハ信州奥州甲州上州常州薩州武州等ノ牧アリテ中ニ敕旨ノ設ケモ見ユ當時奥州ノ牧ハ安
達原尾花澤等ニシテ此レ奥隅ニ及シ事ノ明記ハ見サレトモ尾駮牧ハ最モ古ク開ケ最モ早ク王宮人ノ耳
ニモ聞エ名所ノ稱ヲ得テ後選集秋寐覺等ニ尾駮ノ駒ヲ詠セシコト出ツレハ若クハ貢獻ノ時ニ人目ニ留
ル秀逸ノ馬アリシ故ニ自ラ此僻隅ニモ名所ノ聞エ高クナリシナラン此ニ二首ヲ擧テ證トス
陸奥ノ尾駮ノ駒モ野放飼ニハ荒コソマサレ馴着モノカハツナ絶テハナレ果テニシ陸奥ノ尾駮ノ駒ヲ
昨日ミシカナ

今尾駮ノ地ニ就テ尋ヌルニ高牧トイフテ上右ノ牧跡ナリト言傳ル所アリ又出戸村ニ連リテ築造ノ跡ア
リトモイフ此モ確定ノ證ニハ非レモ名馬産出ノ地ニシテ古ヨリ東六ヶ村ト唱ヘシハ尾駮村高尾村(今
鷹架ニ作ル)鞍打村(今倉内ニ作ル)等ハ皆相連接スルノ地ニシテソノ名モ亦馬ニ由縁アルナリ凡テ地方
ノ名稱多クハ蝦夷語ヨリ出ツ然ルニ此地方皆馬ニ由縁アリシモノハ上古開牧ノ業アリテ名馬産出セシ
證ハ明ナリトス可シ然トモ又熟考スレハ上古此奥隅ノ荒野ハ皆イツクモ同シ秋ノ艸深ニテ獨尾駮ノミ
産出地ナルニハ非サリシナラン

因テ云古歌ニ尾駮牧ノ外荒野牧トイフコト出ツルモ亦同シク奥隅ヲイヒシモノニ似タリ

南部家ニテ此地ヲ領セシハ古記ニ文治年間ニ源頼朝公ノ諸國追捕使トナリ封建ノ勢ヲ創シ時ニ南郡光
行ハ勳功ニ因リ甲斐國南部莊ヨリ糠部ヘ入部シ三戸ニ到着ストアリ糠部ハ五郡又數郡トキアリテ時ノ
經界ハ詳ナラサレモ今ノ二戸郡三戸郡北郡ノ如キ産馬地ノ糠部タルハ疑フヘカラス糠部ノ稱ハソノ荒

穢ニシテ出穀石高ニテ算入ハ成シ難キヨリノ名ナルヘシサレハ一般ニ牧艸繁盛ナル天然ノ良牧場ニシ
テ馬ハ却テ早已ニ之ヲ占メ地主タリシヤモ知ルヘカラサルナリ

因ニ云舊蹟遺聞ニ今二戸郡ニ糠部郷ノ名殘レリトアリ或人曰糠部ハ郡名ニ非ス其證ニハ北郡ハ光行
侯ノ時已ニ其名アリ直筆ニテ相米家ニ與ラレシ證文ニ北郡ヲ與フヘシトアルニテ明ナリ但シ己ニ北
郡トイヘハ更ニ糠部郡ト稱スル謂ナシ後ニ利直侯ノ時ニハ糠部ノ内ヲ遣ストアリテ此モ亦郡トハイ
ハサレハ糠部ノ名ハ常在テ只郡名ニハ非ルナリ之ヲ惣稱スル時ハ即チ五郡ニシテ九戸津輕ノ二郡
ヲ加テ皆蝦夷ノ住居ナリシ荒穢地ヲ指タルナラン今ハ次第ニ開ケ糠部ト稱スベキ實モナクナリシ故
ニ名モ自ラ消エシナルベシ

源平盛衰記ヲ按スルニ頼朝公ノ時ニ秘藏ノ御馬アヲテ生啖麿墨トイフ秀衡カ子元能冠者カ進セタルナ
リ麿墨ハ三戸立生啖ハ七戸立共ニ宇治川ニテソノ名ヲ施セリ又熊谷直實カ樺太栗毛ハ一戸立ソノ息小
次郎カ西樓ハ三戸立トアリ直實ハ源平ノ戰アル節ニ然ルベキ馬ニテ海ヲモ渡リ山ヲモ越エベキヲ尋得
ヨトテ家ノ舍人權太ニ上品ノ絹二百疋ヲ持セ奥州ニ下シ一戸ノ牧ニテ撰勝タル大夫黒ハ三戸郡住谷野
ヨリ出テ有名ナル池月ハ七戸ノ上野村ヨリ出ツ黒栗毛ニテ高サ八寸アリトイヘリ外ニ此頃名ヲ得タル
白波一戸鹿毛童子鹿毛花柑子ナトノ類モ亦奥隅ノ産ナルベシ又舊蹟遺聞ニ東鑑ヲ載セテ糖部ノ駿馬五
十疋云々トイフ事アリ右ハ中古以來此地方ノ産出ヲ略擧スレトモ猶他ニモ必ス多ク有シナラン

因ニ云盛衰記ニ生啖トハ黒栗毛ニテ高サ八寸太ク逞ク當時五歳猶急勇ベキ馬ナリ陸奥國七戸立ニテ
鹿笛ノ燒鏡アアタレバ少モ紛フヘクモナシトサレハ燒印ノ事ハ文武天皇ノ時ヨリ連々綿々トシテ此
地方ニモ行ハレ來リシト見エタリ

又云源平戰爭ノ時ニ關東武士ノ最要器械ト頼ミシモノ馬ノ右ニ出ルナシ東海道ノ川ニハ論モナク宇
治勢多ノ流鶻越ノ嶮ヲモ畏レヌ勇マシキ勢ハ之ヲ上方勢ニ比スレハ火繩鈍ト雷管銃トノ差アルカ如

シ熊谷カ態々奥州マデ舍人ヲ下シタルニテモ馬ヲ撰フノ精神ハ想フヘキ事ナリ
名馬集ニ云横濱中務少輔ハ隱居シテ有戸ニ住居セリ四戸治郎カ乘馬ヲ嗜メル故ニ有戸ノ代官ヲ召シ故
老ノ言傳アル尾駮牧ノ野馬景況ノ物語ヲ聞シメラレタリ云々又云妙心院ノ時ニ栗毛ノ大馬アリ倉内沼
ヲ渡リ來リ二百餘ノ母駄及ヒ父馬ヲ喰殺セリ妙心院下知シテソノ大馬ヲ殺サシメタルニ七尋アリシト
イフ時ニソノ殘馬ヲ調見シニ猶二十三頭ノ母アリ此二十三頭ヨリ産出セシ駒ハ皆名馬トナレリ因テ先
ノ大馬ノ喰殺セシハ明神ノ意ニシテ惡馬種ヲ絶タシメタルモノナリト云此事村民ノ口碑ニモ傳ハリ大
馬ノ塚ナリトテ今猶存ス

因ニ云今ハ有戸ハ微々タル孤村ナレトモ古ハ東濱ヨリノ通路ニシテ代官所此ニアリ野邊地ノ開タル
ニ從テ追々ニ移リシナリサレハソノ代官所アリシハ頗ル古キ時代ナリト知ルベシ
又云七尋又七鞍トモ傳フ但シ口碑ノ説ハ荒唐ナレトモ一種大形ノ種子アツテ今モ倉内村ヨリ産出ス
ルハ村民ノ熟知スル事ニソノ實物ナキニ非ス故ニ擧ク

東奥軍記ニ云天正十六年豊臣秀吉ヨリ乘馬ノ御望アリ南部大膳大夫信直侯ニハ七戸ノ牧ヨリ逸物ヲ
撰取リ馬衣ヲ粧ヒ十頭揃テ獻セラレシカハ大ニ公ノ御感ニ入り御朱印ヲ下シ賜リ上方ノ若尾殘ル所ナ
ク調タリ云々同十八年信直侯ニハ秀吉公ノ小田原陣所ヘ伺出テ前田利家侯ニ因テ津輕討伐ノ命ヲ請ヒ
馬百頭鷹五十居ヲ獻シタリ云々同十九年九戸政實ノ亂アリ淺野彈正小彌ニハ惣督トシテ下向アリシ時
ニ南部家老臣東濟ノ所持セシ馬ニ上野村ノ産ニテ黒栗毛ノ名馬アリ駿疾ナル飛鳥ノ如シ之ヲ淺野侯ニ
贈ラレタリ云々昔ヨリ地方産ニテ贈物トモナリシモノハ馬ト鷹トナリ然ルニイハユル奥州馬ナルモノ
ハ各書ニアレトモ時ノ奥州ハ幸テ泛シ今ハ其中ニ就テ此地方産ニ明證アルモノヲ略舉ル此ノ如シ
因ニ云南部家ニテハ頼朝公ノ時一タヒ鎌部ヘ移リテモ引繼住居ハ上方ニテ此地ハ城代持ニシテ置シ
ナラン時ニ安部家ノ殘黨ヲ始メ志和賀禊貫等御所ト稱シ各處ニ占據スルモノ多ク地頭ノ家子

此ヨリ九牧ノ
事述フ

郎等ヲ以テ一村ヲ成ス鎌倉時代關東ノ風地ニ存シ信直侯マデ四百年餘ノ政績明詳ナラズ稍々明ナ
ルモノハ信直侯以下ニ係ルモノニテ藩翰譜ニ載スル所其要ヲ得タリトス此等ニ因テ合考ルニソノ昔
馬産ノ事モ明記ナキナラン

住谷牧ハ往古ヨリ野馬アリシカ之ヲ再興セシソノ着手ハ元和元年ニ信濃守利直侯三戸ニ在テ鷹ヲ放チ
ナカラ城東ノ泉山村邊ニ逍遙セラレ古曾テ此地ニ野馬ヲ放チシコハナシヤト尋子ラレ農民勘解由トイ
フモノ答テ此下流駒木村トイフ處ニ野馬ノ病ミシ時民家ニ引入飼置タリシトノ言傳アリ云々ト申上ル
利直侯ハ此ヨリ母馬十一頭ヲ精撰シ泉山村ノ地頭泉山彌七郎ニ命シテ放牧セシメラレタリ
因ニ云一説ニ住谷野ハ古ハ畑打野ト稱ス正保二年幕府ヘ上伸ノ書ニモ畑打トアリ元祿十二年ニ至テ
今ノ稱ニ改ム

相内牧ハ慶長十八年ヨリ放牧シ與七郎トイフモノニ代々野守セシム又或ハ應永頃ノ昔ヨリ住谷相内共
ニ野守ヲ置キシ説アレトモ確證ハ詳ナラス住谷相内ハ一河流ヲ隔タル接續地ナレハソノ開放ノ年代モ
格別ノ隔リハ無リシナラン

木崎牧モ古ヨリ野馬アリシカ曾テ大雪ノ時ニ死絶タリ寛永七年山城守重直侯ニハ此事ヲ聞カレ三十頭
ノ母馬ヲ放タシメラル同十六年下田治太夫ヨリ此牧ヲ獻セリ但シ此迄ハ下田家ノ領地ニテアリシナラ
ン同十八年小比類卷助右衛門ニソノ野守ヲ命セラレシト同家ノ舊記ニ見ユ

又重牧ハ重直侯巡回ノ時ニ又重兵部ヨリ之ヲ獻セシトモ云或ハ正保三年ヨリ御野トナルトモ云又元祿
十七年茂右衛門九左衛門ノ兩人御野馬別當勤ルニ付持地ノ中高五石ツ、知行ニ直シ與ヘ餘ハ免除セシ
由ナリ又大ニ修築ヲ加ヘ千人普請ナトイフ大土切ヲ興セシコト後々マテ傳レリ享保十年牧場圖ヲ製シ
幕府ニ奉リシコトモアリ但シ始メハ盛ニシテ追々ニ衰タリト見エタリ思フニ木崎又重ノ如キ南部家政
令ノ行ハル、ニ從テ地頭共ニモ所有牧場ヲ獻スルニ至リシトハ見ユレトモ當時牧場ノ景況果シテ如何

ナリシヤハ證スヘキモノ無シ
 大間奥戸二牧ハ奥戸ハ寛永十六年ヨリ大間ハ正保三年ヨリ御野トナシ享保五年ニハ一連ノ牧トシテ大間ハ源三郎奥戸ハ四郎右衛門共ニ野守ヲ命シ野扶持トシテ一日一人三合ノ割ヲ以テ與ヘラレシ由後寶曆頃ニハ又分テ二牧トナセリ

蟻渡牧ハ寛文十二年ニ兵藏トイフモノ別當ニ命セラレ高七石五斗ヲ與フトアレモソノ以前開ケシハ未タ詳ナラズ但シ地勢尾駁古代ノ牧趾ニ跨タリト又有戸代官ノ説ナトニ因テ考ルニ古盛ニシテ終ニ中廢シ又再興セシハ即チ寛文年間ニテアリシナラン

三崎牧ハ明曆四年別當三光院ヲ野守ニ命シ北野牧ハ寛文四年覺兵衛トイフモノヲ野守ニ命シ免高ヲ許サレシ由ナリ蓋シ此二牧モソノ開起ハ何ノ代ナリシヤ古キコトナラン此モ重直侯ノ時ニ野田掃部ヨリ獻セシ由ナリ八戸家ヲ分地セラレシ時ニ一時ハ之ニ屬セシカ後又他村ヲ以テ之ニ換ヘ再宗家ニ歸屬セシナリト云

以上合セテ南部家ノ九牧場トシ幕府ヘ公達アリテ世ノ聞エモ高カリシモノナリ外ニ田鎖野三保野廣野立崎野アリ凡テ十三牧アリシカ其記載詳ナラス九堀發端ニ曰三保鹿野ハ八戸家ニ分屬ス田鎖野ハ元祿八九兩年ノ飢饉ニテ廢シ立崎野ハ古ハ名馬モ産出シ父馬貸與モアリシカ享保年中ヨリ廢セリ
 因ニ云右ハ一戸五右衛門松尾紋左衛門ノ記ニ因テ取捨セリ或ハ首尾不完全ナルモ強テ之レカ説ヲ爲サズ

參考ノ爲メ九牧ノ所屬及ヒ方里ヲ擧ク

牧名	所	屬	方里
住谷牧	三戸代官所今三戸郡役所		長二十五町橫十五丁

相内牧	同上		長一里橫五六丁
木崎牧	五戸代官所今上北郡々役所		長九里餘橫二里餘
又重牧	同上今上北三戸兩郡分屬		長六里餘橫十丁餘
三崎牧	野田代官所今九慈郡郡役所		長三十丁橫二十五丁
北野牧	同上		長二里半橫一里半
蟻渡牧	始七戸代官所後野邊地今上北郡		長一里半橫一里餘
大間牧	田名部代官所今同郡役所		長一里半橫二十丁餘
奥戸牧	同上		長一里橫二十四丁餘

以上方里ハ寶曆年間以前ノ調差ニ係リ略且疎ナリトス然レモ之ヲ頭數ニ照セハ或ハ當時地積ノ配當ヲ概略シ知ルベキナリ但シ人民逐年ニ繁殖シ田畝ヲ開起シ從テ牧地ハ挾縮セシ事アラシ
 今九牧ノ地勢ヲ略述スルニ住谷牧ハ名久井嶽ノ麓ニテリテ嶽ハ南ニ屹立シテ半空ニ聳エ北ニ遙ニ傾ケルソノ西北ヲ住谷トス下テ馬淵河アリ河ヲ隔テ、西ニ突出セル高阜アリ此ヲ三戸古城トス南部家ノ城址ナリ此ヨリ繞リ河ニ傍ヒテ北ナル里餘ナルヲ相内牧トス住谷牧ト相對ス岡陵出沒シ田畝ヒニソノ間ニ開ケ今ハ舊牧ノ景況ヲ見ント欲スルモ想像シ得ザルナリ、又重牧ハ五戸河ニ從テ上下シソノ間丘阜起伏シ叢林斷續相控テ長シ即チ又重村ヨリ起テ上ハ戸來村ニ至リ下ハ轟木市川村等ニ至ル「木崎牧ハ昔時木崎トイフ村落アリテ今ハ絶エ然レトモノノ名ハ此ニ本ケリ百石三澤兩村ノ曠原ヨリ谷地頭天ケ

森」ニ至リ地勢東ニ傾テ海ニ沿ヒ裡ニハ小河原沼ノ繞レルアリテソノ半ヲ遮リ佛沼織笠沼等ノ水便モアリソノ間樹木疎々生艸最モ茂レリ缺ク所ハ山脈ニ乏シキノミ北野崎ノ二牧ハ相連續シ山最モ深ク喬木到處ニ繁リ東ハ大海ニ臨ミ崖岨危峻馬或ハ陷没スルコトアリ北ハ八戸侯ノ所領ト接シ逸馬或ハ此ニ投ス蟻渡牧ハ所謂古代ノ尾駮牧ニ百レリ故ニ尾駮ノ牧ト改稱スベシトノ説モアリ西東共ニ海ニ接シ陸上狹長纜ニ五六里ニ過サルノ中央ニアリテ高低一ナラス溪谷間通シ樹繁リ艸長シ古ノ有戸村代官所ト牧場トヲ分別シ蟻渡ノ字ヲ用キシナリ牧場址ハ現ニ猶存ス山田縣令ノ時ニ此ニ因テ撰畜場ヲ設ク今ハ廢セリ大間奥戸ノ三牧ハ共ニ田名部半島ノ西隅ニアリテ海ニ面シ函館ノ航路ハ纜ニ六七里ニ過キス背後ニハ連山並立シ灌水森々タリ平地ハ麓ノ傾ク所ニアルノミノノ間生艸モ亦宜シトス

九牧ヲ直轄セシヲ御野馬役所トイフ三戸町ニ設ケタリ牧馬ニ係レル百事ヲ疏辨シ或ハ此ヨリ出張シテ經理セシナリ三戸町ハ南部家垂跡ノ地ニシテ古城猶存スレハ山間ニアリト雖此地ヲ以テ北方ノ中心トシ代官所ト馬役所ト昔ヨリ此ニ設ク御野馬別當之ヲ管理セリ又盛岡ニハ君側ニ御用人アリ馬ニ係ル願同等ハ悉皆領受シ君主ニ謀リ老職ニ議スル等皆ソノ掌ル所トス又時ニハ巡回シ檢視セシコトモアリ延享二年利親侯ノ時御用人桂和泉ハ奥戸ニ出張シテ垣堀ナド檢視セシコトアリ木崎野ニモ來リシト見エ濱三澤村野守ノ宅ニ書殘セシ發句ヲ見シコトアリ

寶曆五年利雄侯ノ時ニ御野馬別當市村嘉平次宮小左衛門ヲ罷テ一戸五右衛門ヲ命シ一人ニシテ二人ノ跡ヲ續勤シム時ニ漆戸玄藩ソノ掛御用人ナリ此改革ノ意ハ審ナラサレトモ人撰ヲ精シ擔當ヲ重セシモノナラン歟五右衛門ハ果シテソノ人ヲ得テ牧馬モ此ヨリ一新セリ此時ニ德川將軍ニハ惇信公ニテ其先代吉宗公勵精シテ治ヲ謀リ良馬種ヲ海外マデモ求メ諸國ノ牧ヲ再興セントセラレシ後ヲ承ケラレシコトナレバ藩々ノ政ニ彰響ヲ及セシハ此頃ニテアリ ナラン

開牧以來ノ書類ニ享保年中火災ニ罹リ盡ク消失セリソノ後ノ書類ニシテ當時五右衛門ノ先役ヨリ受續

タル書目アリ以テ想察ノ一端ニ供スベシ因テ悉ク左ニ舉ク

惣御野清書帳二十四冊 惣御野古帳四十一冊 九ヶ御野繪圖十枚 同死馬留帳十八冊 御用日記八冊 御用帖二鈞 古案紙帳二十八冊 飯屋並ニ馬屋繪圖一枚 飯屋引請帳一通 御小者請帳一本 諸書付三袋 御野守身帶附一帳 反古四丸 御神事御馬帳一通 御用糧一箇 硯箱筆筒煙艸盆大釜鍋夜具洗船各一箇 飼料船四箇 馬尺一本 手足洗盤一對等ノ品々ナリ當時一役所ノ體裁ハ此ニテ推知ルベキナリ今ハ此等ノ書類モ傳ラス然レドモ余カ閱セシ所ノ五右衛門ノ私記ハ往々從前ノ事ヲ表出シ此等ノ書類ニ據リシモノナレバ從前ト以後トニ跨リ兼タリトシテ可ナリ

因ニ云五右衛門引續書類ハソノ後ノ官所ニ傳リシモノナレトモ今又傳ラサルモノハ或ハ火災ニ罹リシモアリ又家々ノ私記ハ維新ノ時ニ至テ百事悉新ニストイフ主義ニ施政ノ方針ヲ向ケシコト故ニ古ニ泥メルハ妨害ナリトテ勉メテ跡ヲ滅シタルモノナリ余之ヲ探求ルニ人々ノ説此ノ如シ

寶曆年間ノ現役員及ヒソノ給料等ヲ舉ケ組織ノ一例ヲ示ス左ノ如シ

御野馬別當一人 惣牧場ニ係ル管理事務ヲ掌ル 一 戸 五 右 衛 門

五右衛門給料年中米五駄(後功ヲ以テ増シテ十駄トナル)(二俵ヲ一駄トス一俵ハ三斗七升ヲ容ル民間普通ハ四斗ヲ容ル)盛岡支配ニシテ謁見以上旅行ニハ上下三人分ノ賄代トシテ一泊一人ハ八十文下二人ハ六十文ツ、晝休ハ之ニ半ス牧場ノ巡回ニハ日數ニ當テ上下二人分米増薪等ヲ給ス

因ニ云明和年間ノ記ニ因レハ米增等ハ現品御渡ニテハ難澁セル旨アリサレハ當時ハ現品渡ナリト見ユ通貨不足ノ爲ナルベシ

御馬責三人 別當ノ附屬役ニシテ馬ノ乘仕立ヲ任ス或ハ別當代勸巡回等ノ事アリ

給料一ヶ年米五騾二人扶持 齋 藤 要 右 衛 門

給料同上 赤 塚 文 太 郎

給料二人扶持

御馬醫二人 醫療ヲ掌ル代勤巡回同上

給料三駄二人扶持

給料五駄

赤塚 源治
中島 政右衛門
坂本 佐野右衛門

御野守十三人 毎場ソノ牧馬ノ看護ニ係ル事ヲ勤ム一場一人或ハ二人ヲ置クソノ給料ハ高地モアリ扶

持米モアリ高地扶持米台與ルモアリ各等カラズ但シ高地ニテ與フルモノハ正税ヲ納ルノミ諸課ヲ免

ス此常法ナリ凡テ給料ニ不同アルモノハ家々世襲ノ素ニ因ル

獵師一人 狼害ヲ除クヲ掌ル二人扶持獵銃外ニ硝薬毒藥等ノ給品アリ

以上ハ御野馬別當ノ支配スル所ニシテ別當ヨリハ之ヲ手向ノモノト唱フ

大肝煎 馬肝煎 馬看名子 御野係百姓 木戸番

此ハ村々ニアリテ御野守ニ付屬シ現馬ノ取扱ニ係ル申向ノ使役ヲ受ルモノナリ

外ニ代官所ノ附屬役ニテ御野馬掛兼帶ト稱シ柵垣土手堀等ノ修繕或ハ馬捕ノ勢子人夫冬中ノ舍飼取扱

等ニ就キ御野馬別當ヨリノ引合アレハ之ニ對シテ差支ナカラシムルヲ任スルモノアリ各村々ノ民間ニ

ハ冬間六ヶ月ノ舍飼ヲ擔任スル事アリシナリ

寶曆五年十二月九牧惣馬數表

表ニ二歲駒ナキハ秋ニ捕リ出シタル後ノ調ナレハナリ

所名	母三歲以上	二歲牝	當歲牝	當歲牡	合計
住谷	二八	三	四	四	三九

所名	尺	鹿	産	歳	數
相内	二六	八	七	一	四二
木崎	八九	六	一〇	六	一一一
又重	五八	一〇	一二	五	八五
三崎	二七	四	三		三四
北野	一〇一	三	一三	五	一一二
蟻渡	二七	一	三	一	三二
大間	八〇	一〇	九	一三	一一二
奥戸	八五	一六	一六	一〇	一二七
九合	五二二	五四	七七	六一	七一四

同年九牧父馬表

表ニ何町トアルハ盛岡ノ町名ナリ

所名	尺	鹿	産	歳	數
住谷	四寸		十三		一

惣馬増減ノ比例ヲ詳ニシ産出死滅等ヲ表出セント欲レモ詳ナラス偶此表アリテ一年産出ノ割合ヲ見ルヘシ次テ寶曆七年ノ調差ニハ合數減シテ六百七十二頭トシ外ニ死滅數ハ百一十一頭トアリソノ減數ノ由ル所ハ詳ナラス

相	木	又	三	北	蟻	大	奥
内	崎	重	崎	野	渡	間	戸
四寸五分	六寸	三寸五分	四寸	五寸	六寸	六寸	三寸
黒鹿	白栗	青	栗	栗星	栗	青	青
馬町	材木町	町	北野	北野	吉里	紺屋町	北野
六	十三	十三	七	十三	十六	二十	十一
一	一	一	一	一	一	一	一

右ハ前表ト相錯エ視ルベキナリ

總ニ云我邦古記ニ馬尺ハ四尺ヲ常題トシ略言スルハ例ナリ即チ四寸トハ四尺四寸ナリ又上レハ五尺幾寸下レハ三尺幾寸トスルナリ今此ニ效フ

明和六年中調査ノ惣馬表

寶曆五年ヨリ十五年ノ後ニアリ

相	住	所	父	母	牝二歳	牝當歳	牡當歳	合	計
内	谷	名							
一	一								
二六	三二								
五	二								
一	三								
二	四								
三五	四二								

九	奥	大	蟻	北	三	又	木
合	戸	間	渡	野	崎	重	崎
一〇	一	一	一	一	一	一	二
七三六	七三	八一	五四	一〇八	五九	六七	二二六
九三	七	二	五	一〇	八	九	三五
一〇六	一九	一六	九	一五	九	八	二六
一〇八	一三	一九	八	二一	九	六	二六
一〇五三	一一三	一一九	七七	一五五	八六	九一	三二五

此後時々ノ惣表ヲ出シ盛衰ヲ照覽セント欲レモ證記ナシ安永三年ニ至テ九牧共ニ定額限ヲ立ツ住谷相内ハ五十頭ツ、木崎四百頭又重百頭三崎七十頭北野百三十頭蟻渡七十頭大間奥戸ハ百頭ツ、トアリ但シ實際ニハ時々不等アリ或ハ頭數ノ増ニ從ヒ野守ハソノ煩勞ヲ厭ヒ減省ヲ請ヒシコトモアリシナリ前表ニ因ルニ父ト母トノ割合ハ相内ノ母二十六頭モ奥戸北野等ノ百頭餘モ父ハ皆一頭ナリ又明和五年御野馬別當ノ上伸ニハ木崎ノ母百四五十頭ナル時ニモ産出ハ三十五六頭ヨリ四十頭ニシテ母増テ二百頭餘ニ至ルモ敢テ産出ノ多キヲ増ササルハ父馬不足ノ爲ナルベシ往年北野ニテ二歳駒ノ捕殘シアリテ父トナリ其翌年ニハ産出ヲ増シタルコトアリ困テ今秋ノ二歳ニテ試ニ之ヲ殘置申度云々ソノ九年ニ至テ父馬ハ二頭モ三頭モ産出ノ數ニ於テ異同アルヲ見サレハ一頭ニテ然ルベシ云々ト御野守ヨリ申出ア

此時三頭ノ中一頭ヲ減シタリ未タ確タル經驗ナキニ由ルモノニ似タリ
 本崎一場ニ就キ殘欠ノ記載ヲ合考フルニ前件ノ明和頃ニハ母二百頭餘トナリテ父モ増シタリシカ安永
 頃ニハ母減シテ父モ亦一頭ヲ減シタリソノ後又追々ニ繁盛シ寛政九年ノ改ニハ總數六百四十八頭トア
 リ文化九年ノ調ニハ七百四十六頭トアリ嘉永ノ頃ニハ八百頭餘ニモ充チタリソノ盛時ニハ父馬モ増シ
 テ三頭トシ又四頭トセシナリ四頭ヨリ多カリシ例ハナシ四頭ノ時ハ二頭ハ冬ニモ放置キ二頭ハ舍飼ト
 シ且ソノ馬ノ立場所モ自ラ區域ヲ定ムルニ至レリ但シ經驗モ追々ニ積テ略ソノ割合ヲ立タレナルベシ
 其他ノ牧ニハ住谷相内ハ只名存スルノミ母ノ頭數モ年々ニ減セリ文化中ニ北野ニテ牧地ヲ増シ母數三
 百頭ニモ爲ル見込ニテ父モ二頭トナシ二歳牡ニテ放置シテトアリ又重與戸如キ母ハ百頭ニ餘ルモ父ヲ
 増シタルコト見エズ或人云又重ニテ母百頭以上トナリテ父二頭ヲ放置キタルコトアリト又云父ニ不完
 全ト見エル事アレバ必ス添父ヲ置ケリ何レノ牧ニテモ然リシナリ

因ニ云今或ハ父一頭ニハ母三十頭ニテ適度ナリトイフ說アレトモソノ馬ノ年齢取扱等ニモ管スルコ
 トニテ老牧者ニ任せヘキコトナルベシ
 父馬ノ取扱ハ何レモ鄭重ニ命シ置キ舍飼ノ飼料ハ一日大豆二升ツ、ノ割ニテ下渡シタリ然ルニ大間與
 戸ニハ一升ツ、ノ割ナリシ故ニ寛政中此兩牧ヨリ外並ニ二升ツ、ニ増テ出願セリ困テ一升五合ツ、ニ増
 セシ旨ナリ但シソノ差ハ何ニ由ラヤ詳ナラズ
 又前表ニ因テ父馬ノ年齢ヲ見ルニ歳ノ老ルマテ能ク用キタリ凡テ三才ヨリ用ユルヲ地方ノ通例トシテ
 此ニ大間ノ父ハ二十歳トアリソノ後ノ廢止ハ明記ナシ後又大間ニ十九才蟻渡ニ十八才又重ニ十七才ナ
 ルアリシコトヲ記セリ十七八才ヨリ二十才マテハ敢テ異トセザリシモノ、如シ
 地方ノ馬齡ニテ記スベキ一話アリ松尾紋左衛門ノ別當執務中ニ木崎牧ニ臨ミ除馬ヲ檢査スル時白土ヲ
 擲着テソノ印トセリ時ニ一頭ノ老牝アリ此印ヲ着ケラレタリ野守助七請テ曰此老牝ハ往年冬置放トナ

牧母四十二才

英國ノ馬書ニ
 ハ三十才ハ極
 メテ稀ナリト
 見ユ

丈尺ハ高カラ
 ズ

リソノ初ノ野生ニテ今ハ四拾二才ニシテ猶能健ナリ因テ御留置アリタシ云々ト申セシナリ此事ハ一
 戸正綱伯母ノ話ニテソノ馬ノ生年ハ自己ト同シキ故ニ記憶セリトイヒシ由ナリソノ後幾年ニシテ斃レ
 シヤハ傳ヘ聞カザリキ
 因ニ云間ク所ニ由レハ三十才ヲ過キソ馬ナドハ往々珍シカラス余カ移住ノ始八戸ノ蛇口氏ニ三十二
 才ノ乗用馬アリ谷地頭ヲ距ル十里強ニシテ時々之ニ乘リ來レリ百石村ニモ三十才餘ノ牝馬アリ冬飼
 ニハ成ル丈柔軟ナルモノヲ與タリト話セリ又明治十四年ノ博覽會ニ縣下ニ秀逸ヲ撰ヒテ五戸産ニテ
 出シタル五才ナル青毛牝馬アリ此馬ハソノ母二十四才ノ産出ナリトイヘリ此類猶多カラシ地方ノ話
 ニ名馬ハ老牝ノ産出ニ多シト聞シ老ニモ次第アルベキナレバ余經驗ニ十才後ノ母ハ每産ソノ後ニア
 リテ位ヲ進ムルモノ猶更ニ注意シテ經驗スヘキ事ナルベシ
 母馬ノ丈尺ハ一般ハ高カラザルモノ、如シ寶曆九年ニ大間與戸蟻渡等ノ牧ヨリ不良馬ヲ除去リシ時更
 ニ七戸代官下ニ於テ村民ノ持馬ヨリ精撰シ之ヲ買入レソノ缺馬ヲ補タルモノニテ當時ニ在テ一等ノ秀
 逸トイフベキ牝馬ノ調アリ左ニ表出ス

寶曆九年母馬丈尺並毛色表 四尺ヨリ同六寸五分ニ至ル

		色			丈												
栗	星	青		栗		栗				合計							
		七	六	二	三	一	一	二	三								
		四尺	四尺五分	四尺一寸	四尺五分	四尺二寸	四尺五分	四尺三寸	四尺五分	四尺	四尺	四尺五分	四尺六寸	四尺五分			

合計	白鹿	黒鹿	鹿	朽栗	白栗
一〇					
六					
八二〇		一			
一五			三		
一		一	一		
八	一		二		
一七	一	二	三		
六			二		
一		一			
二			一		
二		一	一		
一					
九七	二	六	一四		

明和三年八月木崎二歳駒表

四尺ヨリ四尺四寸ニ至ル

合計	栗星	白栗	栗	色	丈
四	二		二	四尺	
一			一	五尺四分	
六		一	五	一尺四寸	
二	一		一	五尺四分	
九	二	四	三	二尺四寸	
四			四	五尺四分	
六	一	一	四	三尺四寸	
四	二		二	五尺四分	
二		一	一	四尺四寸	
三八	八	七	二三	合計	計

同年大間奥戸二才駒表

三尺六寸五分ヨリ四尺二寸ニ至ル

合計	栗	黒鹿	鹿	青	色	丈
二	一			一	五尺六寸	三尺
一		一			七尺	三尺
二				二	五尺七分	三尺
二	一			一	八尺	三尺
一				一	五尺八寸	三尺
三	一		一	一	九尺	三尺
三	一		一	一	五尺九寸	三尺
三				三	四尺	
二				二	五尺四分	
一				一	一尺四寸	
二				一	五尺四分	
三			一	二	二尺四寸	
二四	四	一	三	一六	合計	計

前表母馬ト合考フ當時馬ノ成育ノ度ヲ想見スベシ此母馬ハ四才以上二十才迄ナリト記載セリ合數ハ九十六頭ニシテ丈尺ハ一頭纔ニ六寸五分アリトイフニ過キスソノ尤多數ナルハ二寸ヨリ三寸五分位ノ間ニアルヲ適度ト見込タルモノノ如シ又先ニ表出セシ父馬ニモ九頭中ニ六寸アルモノハ纔ニ一頭ナリ此時木崎ノ二才駒ハ九牧中ノ第一等ナリトイヒシカ即チ二寸以上四寸ニ上レルナリ但シ此ハ殊ニ上出来ニテアリシナルベシ同時ノ大間奥戸ノ表ヲ見レハ猶三尺ノ段ニアルモノ多シ合セテ以テ之ヲ要スルニ時俗丈高ナルヲ好サリシ故ニ成育ノ發達ハ天然ニ任セテ願ミサリシナラン名馬集ニモ二才ノ時ノ撰方ハソノ馬七八才ニシテ丈ハ二寸五分ヨリ三寸五分位ナルベキ馬ヲ見立テヨソノ時ニ大名歩ミヲ成スモノハ上乘ナリト教タリ但シ大名歩ミハ十分ニ出来タル歩様ナリサレハ昔ヨリ此地方ニテハ出来上リハ七八才其丈ハ二三寸ナルヲ好ミシモノナリト知ルベシ

因ニ云馬ハソノ時ノ使用ニ因ルコト多シ先ニ我國戰國ノ餘風ニテ乗用ノ丈高ニ過クルハ武道不案内

大馬ノ出産無
キニ非ス人ノ
好マサルナリ

人身モ最モ高
カリシナラン

牧畜家ノ苦心
此ニアリ

牝馬ノ丈ハ高
カラス

各場一時ノ毛
色ヲ擧グ

年中行事ノ第
一

ノ嘲ヲ受ク何トナレバ隨處隨意ニ乘リ降り速便ヲ要セシハ兵家者流ノ主義トセシ所ニシテ高キハ不
便ナレハナリ以テ維新前迄ノ風習ヲ爲セリ然レトモ今其地ニ就テ故老ノ話ヲ聞クニ木崎牧ヨリモ五
尺二寸餘ナル名馬ノ産出シ譽ヲ得シコトアリ百石村ニモ五尺二寸ナル牝馬ノアリシコトハ纔ニ二十
年前ノ事ナリ倉内村ノ産出ニハ續々大馬系ヲ傳テ外村ニモ及ヒシコトアリ此類ノ事ハ詳ニ問ハ、猶
多キナラン故ニ丈高ノ馬ハ産セサルニ非ス時ノ風習ニ適セス嗜好セサリシヲ如何センヤ
又云源平時代騎戰ノ盛ナリシ時ハ丈尺アル馬ヲモ珍重セシヤウニ見エ太平記ニ坂東ノ名馬一月五尺
三寸又塩津黒五尺三寸源平軍物語ニ大栗毛八寸餘盛衰記ニ生倭八寸薄墨青海波共ニ七寸月輪七寸二
分白波七寸五分秩父鹿毛七寸八分ナト、アルモノ何レモ名馬ノ稱ヲ得テ寸尺アルモノナリサレハ二
三寸ヲ適度トナシタルハ最後世ノコトナルニ似タリ
又云馬ノ成育ニモ大ニ早晚ノ差アルコトナリ凡テ奥洲馬トスル中ニモ南部産ハ三春仙臺等ノ馬ニ比
スレハ晩成ナルハ人々ノ唱ル所ナリ即チ名馬集ニ七八才ヲ期シテ大名歩ミヲ成スヲ上乘トシ如キ
モ亦其証ナルベシ七八才ニシテソノ成育ヲ遂クトスレハ馬齡ノ長短モ此ニ係リ壯強ナル使用度モ此
ニアルモノ理ナリ今時洋馬種ヲ以テ變化スルノ法ニ至テハ一變再變進ムニ從テ成育ハ一層ノ晩ヲ加
ルカ如シ然トモ又一方ニハ詞養法ニモ自ラ進歩スルコトアレハ猶更ニ實際ニ經驗ヲ要スル事アルベ
シ又云牝牡ノ丈尺ハ大低適對ヲ宜シトスレトモ今我邦ニテ新ニ洋種ヲ入ルニ方テハ全ク然ル能ハナ
ルハ勿論ナリ偶英國馬史ヲ閱スルニ英國ノ制ニ牝馬ノ丈ハ五尺ニシテ牝馬ノ丈ハ四尺三寸ヲ限レル
コトアリ此制ハ當時ノ非難ヲ受クシ由ナレトモ我邦舊來ノ風習モ牝馬ノ丈ハ短キモ敢テ妨ナシトセ
リ余カ經驗ニモ五六寸ノ牝ニ五尺三四寸ノ牡ヲ配セシコトモアレトモ亦支アルヲ見サリシナリ但シ
此モ亦更ニ經驗ヲ要スベキコトナリ
前表ニ毛色ノコトヲモ出セシカ毛色ハソノ當時ノ嗜好ニ因テ少異同アリト雖モ永ク衆好ニ適セシモノ

ハ青毛鹿毛ナルベシ栗毛モ一時大ニ好メル事モアリト見エシカ七戸ニテ多數ヨリ撰テ買入タル九十六
頭ノ中五分ハ青色次ハ栗毛ト鹿毛ナリ寶曆ノ際各場母馬ノ毛色ヲ記セシヲ見ルニ住谷ハ鹿毛相内ハ黒
鹿毛ナリシカ同十九年ノ上伸ニハ毛變ヲ置キ然ルヘキ旨ニテ葦毛月毛水青毛白河原毛黄河原毛宿月毛
尾髮白毛黒葦毛粕鹿毛栗粕毛青粕毛鶉毛等ノ事ヲ伺出シナリ此事果シテ採用ナリシヤ否ハ詳ナラス後
寛政ノ調ニ相内ノ青毛鹿毛トアリ又重ハ始メ青毛後ニハ朽栗毛トナレリ木崎ハ始メ栗毛白栗毛回星等
ナリ又場廣ニシテ馬モ亦各ソノ群ヲ分チタル故ニ後ニハ一牧ノ内ニ三澤尻ハ青毛玄藩場ハ栗毛木藤内
ハ雜色ナト、分ケタルコトモアリ蟻渡ハ栗毛大間奥戸ハ青毛北野三崎ハ鹿毛等ナリ但シ父馬表ノ毛色
ト全ク合ハサル所モアレトモ時々ニ少シク變シ永ク一場純一トナリシコトモ無カリシナラン但シ旋毛
ハ之ヲ忌ムノ習甚シク固着セリ爲ニ往々秀逸ノ馬モ器ヲ成ス能ハス空シク駄用ノ困ヲ受ケシナリ其本
ハ馬經大至療馬集等支那書ノ說ヨリ出テ吉凶ノ說ニ眩セシモノナリ余來テ時々民間ノ秘藏セル馬書ヲ
見シニ大低ハ旋毛ノ圖解ナリ然レハ獨此地方然ルノミナラス一般ノ風習久シク此ニ固着セサルハ無リ
シナラン
因ニ云毛色ハ人ノ嗜好ト時ノ流行ニ任スヘキナレトモ其理ヲ推セハ外ニ顯ル、ノ毛色ハ必ス内ニ根
サス骨肉ヨリ萌シ來ルモノニテ取モナリサス硬軟ノ區分ヲモ表セシモノナルベシ一馬ノ爪ニ半白半
黒ニシテ白ハ軟黒ハ硬ナルノ類ニテ知ルベキナリ故ニ地質氣候等ニ依リ外感ノ爲メ強弱ノ因縁トナル
如キハ必ス無トイフ可ラス此亦各地ニ在テ實驗スベキ事ナルベシ
牧場年ノ行事ニハ先ツ春ニ野放ノ事アリ三月消雪後豫メ何日ト期シテ之ヲ布達シ各飼引受ノ村々ヨリ
ソノ期ヲ違ハス牽出サシメ途中ハ馬賣馬醫等ノ役々及大肝煎馬肝煎等モ共ニ出テ放牧スル場ニ到着ス
ルマテ看護スルナリソノ期節ハ消雪ヲ待チ直ニ焼切トイフ事アリ此ハ村民共ニ出テ原野ヲ燒キ一ツハ
以テ枯艸ノ硬物ヲ絶チ一ハ以テ燒灰ニテ新艸ノ培養トス又家屋山林等ニ火野延燒シ來ルノ豫防ヲモセ

二十三日ヨリ
六日ニ至ル
生ノ度ヲ見ル
ベシ

シナリソノ後日ナラスシテ新艸必ス生ヌ年々此ノ如シ寶曆七年ノ記ニ二月二十三日ニ相内野ヲ燒キ同
二十四日ニハ住谷野ヲ燒キ三月六日ニ至テソノ相内ニ野放シ同七日ニ住谷ニ野放セシナリ此ヨリ比ス
ルニ從ヒ雪消モ自然ニ晚ケレハ四月末端午前ニテ農事未タ繁忙ナラサルノ際ニ放シ了レリ之ヲ放ツ時
ハ御野馬別當ハ必ス臨場閱視スルナリ或ハ凶歳ニ係リ民間ニ飼料乏シキニ至レハ野燒ニ暇アラサシテ
舊枯艸ヲ食料ト見込ミテ早ク放セシコトモアリ困難ノ民家ニ冬際六ヶ月ヲ舍飼セシ爲メニ馬モ亦糶
ヲ極メ放牧ノ地ニ遠シ得ス中途或ハ暴風雨ニ遇ヒ困病セシ等種々ノ苦情モアリシナリ此野牧ノ事濟畢
レハ必ス盛岡ノ御用人迄異狀ナク放シ畢タル旨ヲ通知スルヲ常例トス
野牧ノ後ニハ馬見役アリ名子アリ日々巡リ之ヲ閱視スルヲ事トセリ凡テ馬ニ係レル事ハ之ヲ鄭重ニ
セシモノナリ常言ニモ御野馬トイヒ御野守トイヒ御野放御野捕トイフ類例ヘハ徳川政府ノ御鷹御茶壺
ナト、一般ナリ馬見役ハ野守ノ目鑿ニテ名子ノ中ヨリ撰ヒ命スヨク見覺テ慣得タルモノナリ木崎牧ノ
話ヲ聽シニ木崎ハ八九里ニ亘レル大場ニシテ馬數モ亦最多シ其最多ノ日ニハ八百頭餘ニモナリテ閱視
スルモノ各自ラ任スル方面アリ方面トイフテモ馬ハ各處ニ散在シ日々一ナラサレ昨ハノ足向ト其
日ノ風吹ナトニテ之ヲ料ルニ多クハ中ラサルナシサテソノ狀ヲ語ルニ曰夏ニハ馬聚テ各處ニ群ヲ成シ
事輪ノ如ク廻リ寸時モ止ラス之ヲ閱スルニ容易ニ審ナリ難シ加ルニソノ各處ニアルモノヲ合セ閱スル
事ニ至テハ最難シ冬ニハ之ニ反シテ馬ハ一頭毎ニ散シ各食ヲ求ムルニ急ナリ就テ頭毎ニ之ヲ認ムルハ
此モ亦難シ一タヒ認ムルモノノ數合ハサレハ之カ爲メ日ヲ重テ歸得ス露宿スル事往々アリ云々サテソ
ノ馬一頭タリトモ見得ザルアレハ何モ何歲何馬ヲ見得スト届出ラ彌場内ニ見得サルニ至テ野守ヨリ馬
別當ニ具伸シ各處ノ代官ニ布達シ廣ク尋テ必ス見出サシム或ハ一二頭ヲ尋出ス爲メニ屬役共四五名ハ
數日出張シ幾多ノ人夫ヲ費ス事毎々アリシナリ若シ他ノ所ニテ見出セハ人夫ヲ出シ立台ヲモ出シテ追
捕ラシム或ハ海ニ溺レ或ハ狼ニ啖ハル、等アリテ途ニ見出得サレハ野守ヨリ之ヲ申出テ係リ代官馬別

牧場巡視ノ景
況馬見役ノ受
前

死馬ノ取扱

當ノ運署ニテ之ヲ御用人ニ届出ルナリ凡テ死馬アル時ハ屬役爲ニ出張シテ檢視シ肝煎立合ニテ耳ト尾
トヲ切リ之ヲ添ヘ届出スコト前ニ同シ寶曆七年ニ三崎野ニテ十四頭ノ馬見エス之カ爲メ馬別當ハ屬役
ヲ率キ代官ヨリモ人夫ヲ出シ嚴密ニ山々谷々殘ナク數日間二三十里内外ノ地ニ尋シモ見出ス能ハス村
民ニハ奔走探尋ノ際ニ銘々ノ食料ニモ窮迫ストイフ苦情ヲ鳴シ途ニ御用人マテ其趣届出タレトモ猶又
御用人ヨリハ遠近ノ代官ヘ布達シテ怠ラス尋テ野守兩人ハ罰ヲ受ケ事ハ濟ミタレトモ此カ爲メ一
方ノ大混雜ニハアリシナリ明和中ニ木崎野ニモ駒一頭ノ不足セシコトアリテ馬別當ヲ始トシテ日々隊
ヲ成シテ尋求シカ途ニ爲メニ十里外ノ村々與瀬澤田等ヨリモ五十人餘ノ人夫ヲ出シ農時ヲ廢スルニ
至レリ是ニ於テ村民擧テ憐ヲ乞ヒソノ尋ヲ中止セシ事アリソノ鄭重ナル大低此類ナリ
秋期ニハ必ス御野捕トイフコトアリ牧内ノ馬ヲ追捕ルコトニテ捕タ上ニハ之ヲ檢査シ牡ノ二歳ナルハ
悉ク引上ケ牝ナレハ當歳ニテ耳ヲ截テ野印トシ他ハソノ儘放置クナリ時ニ除馬ト稱シテ老馬疵馬惡馬
不逞馬等ハ之ヲ除キテ競賣セシメ或ハ功勞アル人ニ無償ニテ與ヘ又老ニ至テモ能ク勉タル馬ニハ之ヲ
民間ニ預置テソノ馬一代手當ヲ付シテ厚ク飼終ラシムル等ノ事ヲ爲セシナリ
野印トスル耳ノ截リ方ハ住谷大間三崎ハ右耳ヲ割キ相内與戸ハ左ノ耳ヲ割キ又重蟻渡北野ハ左耳ヲ截
リ木崎ハ兩耳ヲ割ク皆定規アリソノ同印ナルモノハ地勢相距リ自ラ混入ノ勢ナキモノナリ之ヲ截ルノ
際萬一ニモ誤テ規定ヲ違フコトアレハ其人ハ差扣エヲ申出テ御用人ノ許容ヲ待テ赦免セラレシナリ頗
ル嚴ナリトス

耳ヲ截リ野印
トスル規則

此馬捕ハ至テ壯觀ナルモノトス之ヲ捕ルニ名子アリ之ヲ援クルニ勢子アリ名子ハソノ村民ニテ専ラ牧
事ニ使役セラル、モノ勢子ハ役割人夫ニシテ遠村ヨリ來ルモノナリ馬別當及ヒソノ附屬ハ臨サルヲ得
ス住谷相内ハ場所モ狹ク馬數モ寡キ故ニ一日或ハ二日ニシテ捕畢ヲ得又重ハ場廣ニシテ馬モ少カラサ
レトモソノ馬氣勢ナク之ヲ捕ル甚タ勞セス或謂フ氣勢ナキハ馬ノ飼方宜シカラス加ルニ夏草モ亦惡シ

壯觀賦兵ノ如

馬躍テ人ノ頭
上テ論ユ

故ニ然ルナリト或ハ然ラン此ハ四五日ナラスシテ捕畢ヲ得大間與戸ハ其民撲ニシテ能勤メ勞ヲ厭ハス
 故ニ二三日ニシテ捕畢ヲ得北野三崎ハソノ地林木繁茂シ且其馬一年ヲ隔テ捕リ來リシ故ニ三歳ノ牡馬
 ハ已ニ父トナリ自ラ一群ノ牝馬陣ヲ護シ占メテ一方ニ據ル故ニ凡テノ馬群ハ四散五分シ八戸領ニ洩出
 ルコト往々ニシテ然リソノ馬尤山野ニ慣レ人ニ近クコト少キ故ニ制御シ易カラス之ヲ捕ルノ際日ヲ費
 スコト多ク人ヲ使フモ亦多シ之ヲ捕ル力ヲ勞スル最多クソノ馬最強悍ナリシハ木崎野ナリ余親シク其
 人ニ聽クニ場廣ク艸長ク灌木疎々林ヲ爲スノ際牡馬ニ乘テ之ヲ驅馳スルモノハ名子ニシテ所謂牧師ナ
 リ四百人餘ノ要所ノニ圍ヲ結ヒ伴ヲ爲シ之ヲ援クル賊兵ノ如キモノハ勢子ナリ之ヲ驅ルニ方略ヲ以
 テシテ聚散開台進退ノ間殆ト軍陣ト異ナラス而シテ勝ヲ制スルノ地ハ追迫テ之ヲ牧袋ニ容ル、ニ在リ
 ソノ人壯強ニシテ危ヲ犯シ身ヲ顧ス亦武士ノ戰場ニ名ヲ競ガ如シ當時ソノ事ヲ執リシモノ今猶之ヲ語
 リテ意氣揚々タリソノ節拔群ナル舉動アリシ者ニハ幾百文トイフ賞譽等モアリシナリ或謂フ名子ノ競
 爭モンノ氣盛ナルモノハ往々乘斃セシコトアリ湊脇ヨリ三澤尻ニ至ルマテ殆五里一氣ニ之ヲ馳ス故ニ
 倒スナシトセシ人ノ慣得ルニ至テハ氣合ノ度ヲ論リ復此患モナカリキ

因ニ云此ニ一話アリ今ヲ距ル四五十年前ノ事ナリシカ木崎ニテ一頭二歳ノ逸物アリ如何シテモ捕得
 ス之カ爲メ驅馳スル三十餘日勢子ヲ以テ合圍メハ躍テ人ノ頭上ヲ飛越シ出ルコト屢々ナリ人々困却
 極レリサレトモ定規ハ固ヨリ嚴ナレハ一頭ナリトテ其儘ニ置クコトニモナラス必ス捕得シコトヲ勉
 シカ一日之ヲ驅追スルノ際ニ野守鴨助トイフモノ誤テ馬ヨリ墮テ爲ニ遂ニ死ス其翌日ニ此逸物ハ難
 事ナク捕レタリ因テ人々奇怪トシテ今ニ人口ニ存セリ此逸物ハ後ニ如何ナリシヤ未タ審ナラサルナ
 リ之ヲ見シ人曰此二歳ハ敢テ丈高ニモ非リキ

每牧ニ必ス牧袋トイフアリ馬ヲ捕ルノ際ニ窮追セル所ノ局所ナリ木崎牧ノ如キ三澤尻一ヶ所玄樺場一
 ヶ所湊脇一ヶ所凡三ヶ所トス後ニ湊脇ヲ廢シテ木藤内ニ設ケタリソノ牧袋ハ三澤尻ハ木柵ヲ構ヘ玄樺

曾テ聞ク支那
 廣東ニテハ馬
 ナ小區内ニ充
 テ一樹ニテ價
 何程トスル由
 亦奇トイフベ
 シ

困難ハ即チ牧
 場改進ノ基ト
 ナレリ

此件以下當時
 本ヲ立ルノ據
 ナ見得ベキ也

石高入夫ノ割
 合

場ハ土手ヲ繞シ何レモ一小區郭トシ廣野ヨリ漸次ニ追來リ此局所ニ至ラサルヲ得サルノ形ニス局所ニ
 至ルニ及テハ馬々首尾相接摩シ寸モ動ク能ハス此ニ至テ名子ノモノ能ク慣レ之ヲ縛スル甚タ容易ナリ
 トス或謂フ袋ノ中ニテ馬々相接摩スルニハ負傷スルコト少キモノニシテ之ヲ放テ競馳スルノ際ハ却テ
 多シ注意スベキハ此ニ在リト

此ニ木崎ニ尤困難ノ情アリシモノハ木崎ハ曠大原野ナリ而シテ繞ニ村落ヲ成スモノハ只三澤一村ニテ
 二十八戸野守名子等此ニ住スソノ他ハ根井村ニ五戸山中谷地頭一戸ツ、アルノミ出張ノ代官馬別當等
 ハ三澤ヨリ炊具未噲等ヲ擔持チ來ラシメ根井ニ寓宿スルノ外ナキナリサテ根井ヨリシテ牧袋ノ玄樺場
 ハ猶一里餘ノ外ニアリ湊脇ハ又更ニ三里餘ノ外ニアリ勢子人夫ハ十里外ヨリ來テ宿ヲ三澤ニ投シ夜半
 ニ起キ曉ヲ侵シテ來ルモ到着ハ已ニ遲シ秋日短谷艸深ク野曠シ之ヲ驅馳スル一回ナレハ勢子ハ早已ニ
 先ツ疲ル糧乏シク日ハ傾キ遂ニ露宿セサルヲ得サルニ至ルナリ故ニ勢子ノ出ツベキモノ逃レテ來ラサ
 ル毎ニ多ク勢子減スレハ馬ハ彌捕得ス更ニ加勢ノ勢子ヲ命ス遂ニハ勢子ヲ命スルニ三重トモナリテ
 漸ク捕畢リシハ往々ニシテ然リ故ニ日ヲ費スモ尤多クヤ、モスレハ二三十日ニ亘レルナリ而シテ此勢
 子ヲ出スノ割合ハ五戸代官下ニ係ル故ニ五戸モ亦困難ヲ免レサリシナリ

勢子人夫ノ割出ハ石高ニヨリテ配賦セリ住谷相内ハ三戸代官下ヨリ出ツ木崎ハ即チ五戸高四千七百石
 餘ニシテ百石ニ就キ八人ツツト一日ノ出人夫ハ三百七十六人トス又重ハ高五千七百五十一石百石ニ
 就キ七人ツト一日ノ出人夫ハ四百二人トスソノ逃レテ出サルモノハ之ヲ罰スル若干錢北野三崎ハ
 二千石餘ニテ石高寡ク人モ亦少シ爲メニ三百貫文ツ、隔年ニ藩ヨリ之カ補ヲ爲シ日ニ出ス四百人ナリ
 然ルニ繁木多ク嶮山相阻リ且八戸領ニ接シテ之ニ走リ人夫ヲ費ス甚タ多シ享保二年ニハ八百人ヲ用キ
 シトアリ然ラザルモ六七百貫文ハ然ス村費トナレリ蟻渡ハ野邊地代官下東六ヶ村西八ヶ村ニ賦シ七月
 代官下ニハ割賦セリ大間與戸ハ田名部代官下五千石ニ賦セリ右ハ詳略不同ナレトモ暫ク證ノ據ルアル

クル此ノ如シ

因ニ云此人夫割ハ最初ハ百石六人トシ此ニハ七人或ハ八人トシ明和中ニハ九人或ハ十人トモナリ漸次ニ多ヲ加ヘタル由見ユ

北野三崎ノ二場ハ享保十九年ノ冬放置トシテヨリ舍飼ノ煩ナシ馬モ亦慣テ習トナリテ能健ナリソノ地ニ灌木多ク笹葉等ノ食料アリシ爲メ據テ凌得シナリ大間奥戸ノ二場モ自然ノ冬食ヲ見込ミ元文元年ヨリ北野三木ト同シク放置トス後ニハ父馬ヲハ舍飼ニセシモアリ但シ土民ノ説ニ父馬ヲ放置ニスレハソノ馬無悍トナリテ惡シトイフヨリ出ツ此モ全ク經驗ヲ重キタル話ニハ非ルベシ

因ニ云馬ハ冬ニ放置キスヘキ地ハ松檜ノ如キ綠葉樹多ク笹葉茂リテ且海ニ沿タル雪淺キ處ナリ但シ馬ハ能北風ノ寒ニ堪エ只食料ナキヲ患トスルナリ

住谷相内木崎又重蟻渡ハ始ヨリ冬舍飼ニセリ舍飼モ村々ノ役割ニテ住谷相内ハ三月下五六里ノ村ニ又重ハ五百下又重村八百石戸來村六百石蠶木村等ニ蟻渡ハ野邊地下及ヒ七戸下ニ何レモ近村ニ分配セリ只木崎ハ近方ニ村家ナキ爲メ止ムヲ得ス二十里外福岡下ニ分配セシナリ分配ノ法ハ代官ヨリソノ身代ヲ視テ指命シ大豆及ヒソノ青刈乾艸糠等ヲ備置炊夫一人ヲ付シ日ニ飼フ三度ヲ常例トス十月ヨリ翌三月ニ至リソノ牽來ルヤ出テ迎ヘ牽去ルヤ送り届ケ附添ノ人夫大肝煎馬肝煎等宿泊料馬ニ用ユル面綱半繩等皆村費ニ係ラサルモノナキナリ

冬飼ニ困難ノ情アル中ニ福岡ハ元高一萬二百石餘アリシカ寶曆四五兩年ノ凶荒ニテ家ニ死亡多ク相續ナキ者アルニ至テソノ石減シテ七千三百石餘トナレリ然レトモソノ馬ノ分配頭數ハ故ノ如シ二十里外ノ遠キノ送迎ノ勞ニ係ルモ少カラサテ木崎ニテハ先ニ捕ルヘキノ馬捕得ス止ムコト無ク殘置キタルモノ延享寬延ノ頃ヨリ寶曆ノ始迄往々アリシカソノ馬必シモ斃レス且能健ナリ捕得サルモノハ固ヨリ健馬ナレトモソノ肉堅キヲ見レハ必シモ放置キノ爲得サルニハ非ルナリ是ニ於テ一戸五右衛門熟々

木崎野ニ放置ノ建議

以爲ク之ヲシテ庇蔭ノ木立アラシメハ冬放置モ亦北野三崎ノ如ク成シ得サルノ理ナシト因テ建議セリソノ建議ノ略ニ曰ク木崎野ハ至テ曠大ナリ而シテ馬ノ爲メ庇蔭ト爲スヘキモノハ纔ニ三澤村ニ松林アルノミ頼テ以テ多數ノ馬ヲ放置クニ足ラス若シ新ニ土手ヲ築キ野燒ヲ制セハ小河原沼ニ傍フ丘陵ハ小田頭ヨリ北八幡館ニ至ルマテ五ヶ所ハ皆山林ヲ設ルヲ得ベレ今既ニ雜木矮松ノ叢生セシアルヲ見レハ五六年間ヲ出テス亦馬ヲ蔽得ルニ至ランサレハ福岡ノ村民ハ冬飼ノ勞ヲ弛ムルカ爲メ之ニ課シテ歲ニ三百十貫文ヲ出サシムルモノノ民固ヨリ甘スル所トスソノ中三百貫文ヲ以テ十手新築ノ用度トナシ更ニ根井村ヲ以テ中心トシ丁壯ヲ移シテ十戸ニ充シムレハ出張ノ役々ニハ宿所ヲ得五戸村ヨリ來レル人夫モ亦露宿ノ患ナク野馬驅捕ノ際ニ於テ大ニ便宜ニシテ馬ノ繁盛モ亦期スヘシ云々

此議採納セラレシハ寶曆八年七月ナリ因テソノ七月ヨリ直ニ役ヲ興シ土手ヲ築ク長千三百七十間ソノ高七尺幅一間半此ニ添フ溝二尺柵木ヲ設ケ牧袋ヲ造リ看護人ヲ置ク等ニ至ルマテ八月中ニシテ成シ畢ル根井村ニモ新ニ丁壯ノ者ヲ移シテ名子トシ兼テ開起ニ從事セシメ十年間ニ五十貫文ヲ分與シ永往ノ資ヲ爲サシム此ヨリシテ木崎馬ハ冬中ニモ放置クコトヲ得テ煩ヲ省キタル故ニ年々ニ増加シテ各場中ニ最盛ノ稱アルニ至レリ又一方ニ福岡ニ於テ冬飼引受ヲ免ルノ幸ヲ得タリ皆五右衛門ノ算ノ如シ其功至テ大ナリトス

因ニ云寶曆頃ニハ此地方錢五貫文ニテ金一兩ニ換タリ後ニハ五貫五百文換トナリ又後ニハ六貫文トナレリト云

又云故老云野燒ヲ制シ松子ヲ播施セシ時ハ三戸ノ並木松ヨリ松毬ヲ採リ疎目ナル籠ニ容レ高ク木枝ニ懸ケ又ハ毬アル枝ヲ地ニ挾ミシ等皆至テ容易ニシテ自ラ風ニ散リ程能ク萌生セリト言傳アリ亦當時ノ一新思トイフベシ

然ルニ大崎野ニ冬放置トナリタル後ノ景況ヲ聞クニ馬ノ損傷モ大分アリシト見エタリ其時ハ今トハ異

一方ニハ數チ省テ頭數ヲ増シ一方ニハ冬飼ナクシテ困難ヲ免ル

風雪ニ陸樹ニ
依ラス

雪中ノ慘情

馬モ亦耐力
アリ

大雪ノ極点

緩ミノ來ル時
警戒注意ヲ要
ス

牝ハ強ク牡ハ
弱ハ經驗ノ語
未タ理由ヲ詳
ナラス

ニシテ艸ノ成長ハ盛ニ宜シク濱方マテモ猶茂艸葉々トシテ雪モ艸頭ヲ埋得サリシ程ナレハ馬能便宜ヲ知リ北風ニハ南ニ避ケ西風ニハ南東ニ廻ルトイフ如ク夫々ニ擇フ所アリ然レドモ樹蔭ニ依ルヨリ却テ淵砂或ハ高丘ニシテ風ノ吹透ス所ヲ擇タリ此ハ雪淺クシテ艸ヲ啖出スニ便ナレハナリ因テ低ナル大雪ナトニハ態ト海濱ニ送出セシコトモアリシナリソノ斃タル馬ハ海濱ニテハ腹内ニ往々砂ヲ雜エ喰タル遺物アルヲ見シコトアリ又山ニテハ青笹類ハ論モナシ立木ノ小枝松皮等モ喰フニ至リ或ハ屍體ソノマ、雪ニ立テ倒レサリシヲ見シコトアリト云此等ノ難場ニモ堪得テ自ラ慣ルニ至リシモノハソノ肉モ亦堅ク愈健康ヲ加タリ只非常ノ大雪ニ至テハ損傷モ亦殊ニ多キ故ニソノ豫防ニハ三四里外ナル村落瀨村ナトニテ年々乾艸ノ用意ヲ爲シ置カシメ又場内ニモ刈集テ之ヲ蓄置キ便宜ニ散布シテソノ啖フマ、ニ任セタリソノ注意此ノ如シ

村民云雪ノ深ハ大抵三尺位マテハ馬能凌得タリ此ハ深ケレハ避テ踏入ル能ハスト寶曆年間ノ記ニ奥戸ニテ五世野守セシ家ノ六十歳餘ナル四郎右衛門ノ話ナリトテ載セテ曰此時ヲ去ル二十一年前ニ地方ニ大雪ノ積リタルコトアリテ馬ノ斃タルモノハ七十五頭アリソノ屍或ハ平地ヨリ高キ五尋モ上ナル樹枝ニ掛リタリト此等ハ非常大雪ノ例ナルヘシ

又云尋常雪深ノ歲ニモ多クハ雪ニハ死セスシテ春ニナリ稍緩メル際ニ油斷スヘカラスト一ト度青艸ニ就クト雖トモ能クソノ喰込タル景情ヲ見ルニ非レハ安心ナリトハ爲シ難シ此ハ積寒ノ極度ヲ困病シ來レル宿根ノ此ニ至リ初メテ發スルモノ多クハナリ此極度ヲ無難ニ過キ腹ニ新艸ノ充ルヲ見得テ初メテ安心スヘキナリ

又云當時當歲ノ弱キモノハ勿論ニ斃レタリ木崎ノ盛ナル時四五百頭ノ母アリテモ産駒ノ能ク歲ヲ越スニ至レル牡ハ五六十頭ニ過キス牝牡ノ割合ハ牝ハ強クシテ牡ハ弱シ最晩産ナレハ何レニテモ弱シ改ニ地方晩産ノモノヲ忌ミ八月後ノ駒ハ生育セストセシモノナリ只笹原ノ多キハ冬食ニ最宜シク斃ル、モ

古來二種ノ馬
アリ

アイノメ、チ
ンホウハ古言
ノ殘リナルヤ
モ知ルヘカラ
ス

ノ自ラ少シ但シ笹葉ハ之ヲ青艸ニ比シテ宜トイフニハ非ス冬中ニ他ノ食物ナキ時ニハ宜シキマテナリ人或ハ馬ノ能力之ヲ辨シ冬食ニ殘置ナト、イフハ頗ル附會ニ屬ス何トナレハ馬ノ喰フモノヲ觀察スルニ最先ニハ最嗜メルモノヲ喰ヒ順次ニ物ナキニ至テハ枝皮マテモ之ヲ喰フハ自ラ然ルモノナリトス

地方馬種ノコト往古ハ沙漠トシテ証ナシ或ハ地殼變動以前ノ殘物タルヤソノ後ニ特別野生セシヤ然ラサレハ文武天皇ノ諸國ヘ牧制ヲ施サレシ時ニ移サレシモノカ或曰ク田村將軍ノ時ナルヘシトノ説モアリ又前ニ記セシ大馬ノ來テ惡馬種ヲ喰盡シタルハ明神ノ意ナリトイヒシカ如キ又意味アルコトナリシヤモ知ルヘカラス何トナレハ迦テ當時ノ民情ヲ考ルニ尋常智慮ノ及ハサルコトハ皆神托トセシモノナリ時ニ野馬ノ自然ニ繁殖セル今ノ北海道ノ奥ノ如ク谷ニ滿チ山ニ滿ルモ種族愈卑下シ有テ用ヲ爲スコト無シ故ニ智慮アルモノ神ニ托シテ精撰セシヤモ知ルヘカラスナリ今試ニ古來ノ種類ヲ尋ヌルニ二種アリソノ一ヲアイヌメ形トイフ即チ乘用馬ニ適セリ一ヲチンホウ形トイフ即チ使用馬ニ適セリアイヌメ、チンホウハ方言ニシテ何ノ意味タルヤ解シ難シ此二種方又雜種ヲ産シ途ニ雜々種トナリ余ハ二種ノ純粹モ亦稀有トナレリ此外産地ニ因テ異同アルモノハ各處ノ形皆然リ能ク視ルモノヲシテ之ヲ言ハシムルニソノ指ス所多ハ適中セサルナシ故老云ニ馬ノ地ニ産スル殖物ノ生スルト異ナラス移ス所ノ地ニ慣ルレハソノ地ノ形ニ變スルナリ五戸ノ馬ヲ持來テ之ヲ谷地頭ニ放チ三年ナレハ谷地頭馬ト爲ルトイフ類ナリ

因ニ云村民ノ傳テ殖物ノ如シトイフモ亦拋却スヘカラサルノ説ナルヘシ何トナレハ此地ヨリ種用馬ノ出シコト寡カラス松前地江差邊ノ馬ハ寛文中回家ノ請ニ應シテ送レルモノナリソノ東部ノ馬ハ文化年中ニ幕府ノ命ニ因テ送レルモノナリソノ他近國各地年々賣出ノ牝牡馬幾萬千百頭ニ至リシヤ計ルベカラス各地到處良否一ナラス詰リ各ソノ地着 種ノ産ヲ爲スモノナリ或ハ謂フソノ馬一代ノ駒ハ父ノ形ヲ善受ルモノノ二代以下ハ故有ノ地質物ニ返レルナリト右等ニ因テ考レハ土地ニ一種ノ

位置アリヤ自然艸ノ中ニ適否アリヤ經驗ノ問題トスベキ事ナルベシ
 又云牧場ニテ父馬ノ系統ハ能注意シ且ソノ出處ヲ明記セリ文化中ニ北野ニ入アル父馬誤テ三戸産ト
 記セシヲ鄭重ノ手數ニテ審査シ正ニ又重産ナルヲ證明セシ等ノ事アリ
 西洋ニ系統書ヲ添ヘテ賣買スル程ノ如キハ我邦ニハ絶テ無キコトナリ
 種族ヲ擇フノ風ハ民間一般ニ感スル所ナリ然レトモソノ互ニ擇フ所ハ多ク牝馬ニアリテ家ヲ以テ之ヲ
 目ス該馬ハ其家ノ系ナリトイヘハ人々競求ムルノ情アリテ價モ亦貴シ但シ何レモ實驗ニ出テ、ソノ系
 ノ馬ハ果シテ駢ヲ産スル良ニシテ且多キナリ故ニ多クハ有資家ノ手ニ入リテ飼方モ亦厚シ益ソノ名ヲ
 得ルノ理アルナリ

因ニ云地方一般ノ賣買ハ牝馬ニ止レリ牡馬ハ一村ノ共有ニシテ競賣市ニテ争フノミ因テ民間ニ感ス
 ル所ハ只目前牝馬ニアリヲ然ルノミ
 又故老ノ見ル所ハ民間一般ノ説ト異ナリ馬種ハ父ノ族ニ基クトイフ近クソノ證ヲ擧テ曰大膳大夫利敬
 候ノ時ニ車方トイフ名馬アリテ中市村ノ高大寺ヨリ出ツ又同時ニ飛龍豐文トイフ名馬モ出ツ乘用了テ
 之ヲ木崎野ニ下ケテ種用トセラレシヨリ木崎ノ野馬ハ一新セリソノ後利濟侯ノ時ニ果シテ國一トイフ
 名馬アリ木崎ノ左番場ヨリ出ツ栗毛ニテ丈五尺二寸五分江戸邸ニアリテ大ニ名ヲ施セシモノナリ後ニ
 之ヲ戸來村ノ勘左衛門ヘ下ケ賜リテ戸來ノ馬品モ亦大ニ進ミタリ父馬ノ爲メ品位ノ進タル例猶多シ又
 父馬ノ爲メニ品位ノ降リシコトモアリ文化中ニ北野ノ父馬ソノ尾下宜シカラス産出ノ駢多ク此ニ似ル
 故ニソノ旨申出テ、引替シコトアリ又重野ニ奥戸ヨリ父馬ヲ入レテ馬品次第ニ降下セシ例モアリサレ
 ハ一進一退共ニ種父ニ因ラザルナクソノ系ノ係ル大ナルヲ見ルベシ
 因ニ云余カ來レル時ニ三澤村ニ有名ナル種馬アリ人之ヲ鬼栗毛トイフ之ヲ問ヘハ國一ノ系ヨリ出ツ
 又故老ノ説ニ凡テ名馬ハ多ク牧場馬ノ中ヨリ出テシナリ民有馬ヨリ出シハ稀ナルベシ必竟ハ種父ヲ精

撰スル官力ニ及ハサル譯ナラン尤馬ノ性質モ父ヨリ稟來レル方多シソノ癖モ父ニ似テ嚙ム癖アルノ子
 ハ必ス嚙ミ蹴ルハ必ス蹴ルコトアルニテモ亦父ノ統ニ係ル一證トナスベキナリ
 南部家ニテ乘馬ノ取扱ハ駒ノ二歳ナル時ノ秋ヨリ引上ケ之ヲ冬ハ福岡三戸ナトノ村々ニテ飼立シメソ
 ノ翌四月ニ入レハ盛岡表馬町ニテ精撰シソノ中ニテ賣ルヘキハ直ニ之ヲ賣リ器ヲ成スヘシトノ見込ア
 ルモノハ馬喰ノ望ニ任セテ十月マテ無賃ニテ預ケ飼ハシメソノ間ハ馬責役ニ任セテ乗仕込セシメタリ
 十月ニナリテ又檢査ノ上眼ニ適シタルモノハ之ヲ官ニ入レ飼キニハ金十三兩ヲ與ヘ又ソノ外ニ代馬ヲ
 預ケシナリサテソノ馬ノ器ヲ成シタル所ニテ獻馬トシ贈答ノ馬トシ藩主ノ乗用及ヒ家士ノ乗用トスル
 等ノ事アリテ中ニモ藩主ノ乗用ニハ尤精撰ノモノヲ立置シナリ藩ニハ御馬責トテ七八人ノ乗仕込師ア
 リ廐ニ常ニハ百五十頭ノ馬アリ何レモ三歳以上乗仕込ヨリ所謂岩乘ナルモノニシテ藩中ノ諸士モ日
 々修業怠ラサリシナリ

因ニ云廐馬ノ飼立ハ一頭ニ一日大豆三舂ノ割ニテ下渡シアリシト云
 右乗用馬ニテ久シク人ニ慣レ人氣馬氣相通シ相熟スルニ至リタルモノハ例ヘハ人ノ教育ヲ經テ心神精
 煉セシト同シ此ノ如キ馬ニシテ十分ノ用ヲ爲シタル所ニテ又初メテ之ヲ下ケテ種用トセシコトアリ之
 ヲ下ル時ニハ此骨體ニテハ某牧ニ適スヘシ或ハ某ノ村馬ニ適スベシト均シク七戸下ニ下ルニモ何レノ
 村トマテ指シタル程ニ時ノ係リ役ニテ相議シテ而ル後ニ配付セシナリ此事自ラ系統遺傳トナリ南部家
 ノ馬産ニ於テ大ニ功カアリシコトナラン
 因ニ云此事ニ付キ思出セシ一話アリ頃口東京ノ或老先生ノ説ニ近來南部ノ産出ニ昔時ノ如キ上悍ノ
 馬ヲ見ストイハレシト聞ケリ果シテ然ラハ此舊時ノ主家乗用馬ノ貸下法ノ久シク絶シ故ニ然ルニハ
 非ルヘキヤモ知ルヘカラザルナリ
 又云遺傳ノ説ニ於テハ余カ經驗ヲ以テスルニ一變化五分ヨリ進テ純粹ニ至ルトイフ毎變ニ進歩スル

ノ説ハ動スベカラス但シ明和四年ニ木崎ニ偶月毛ノ産出セシヲ珍シキコト、シテ藩主ニモ申上シ
コトアリ思フニ此ノ如キハ幾代カ先ノ系ノ殘リシモノナルヘシ余カ近キ山中村ニテ父馬ヲ代ヘシコ
ト己ニ四五五代ニ及ヒテ或ハ久シク父母共ニ無キ毛色ノ栗毛駒ヲ産スルコトアリ其系ヲ尋ヌレハ野馬
ノアリシ時ノ昔ニ返レルナリ此等ハ未タ純粹ニ至ラサルノ證ナラン房洲嶺岡ノ白牛ノ如キハ享保年
中三頭ヨリ繁殖シテ余ハ明治四年ニ之ヲ視シニ二百頭餘皆白ナラサルナシ此ノ如キハ他種ノ絶テ混
セシコトナキモノナリ形體遺傳ノ外ニ顯ルル此ノ如シ稟性モ亦同理ニシテ良種ヲ以テ變スレハ現ニ
一變毎ニ一層敏捷ノ性ヲ加ルヲ覺ユルナリ故ニ調煉熟セシ馬ノ駒ト野生ノ駒ニ於テハ亦自ラ異ナル
アリトシテ可ナルベシ

母馬精養

牧場ニテ母馬ヲ精養セシコトモ五右衛門執務ノ後寶曆九年ニ初メテ此事アリ其先ニハ久シク抛却セシ
ト見エ蟻渡牧在來ノ母形追々崩レ良駒ヲ産セス因テ撰テ五頭ヲ殘シ置キ餘ハ悉ク之ヲ除ケ大間與戸ノ
二枚モ不良ナルモノ九十頭余亦皆之ヲ除タリサテソノ除ケタル馬ハ五戸三戸福岡ニテ賣拂ヒ更ニ七戸
下村民ノ母ニ撰ヒテ之ヲ買テ入換タリ時ニ拂代ハ賤ク買入ハ貴クソノ差凡百二十五貫文但シ下々馬一
頭ニ付五貫文ツ、ノ足錢ナリシ云々是時買入換タルモノハ九十六頭トス(寸尺前ニ表出ス)亦牧場ノ
一大改革ナリキ享和二年松尾紋左衛門執務中ニ北野三崎モ三十頭ツ、合六十頭ノ入換アリソノ他老馬
疵馬不良馬等ハ点檢シテ之ヲ拂フヲ除馬ト唱へ年々アリシナリ又時ニハ新ニ撰テ買入ルヲ入換ト唱フ
皆用人中伺濟ミニテ取扱セシナリ

因ニ云進歩ノ割合ニ一變化ヲ五分ト視做スハ父ノ一方ニ係レルコトナレモ母ノ良否ニ因テ進力ニ次
第アルハ論モナキコトニシテ民間ニテ目前ノ母ニ注意ヲ厚スル如キモ亦實驗ヨリ出シナリ余カ實驗
ニモ父母共ニ次第アルヲ感セリ

又云撰テ所ハ父母共ニ良ニシテ其駒モ良ナリ是ニ於テ最注意スヘキハ當歲二歳ノ飼立ナリ何トナレ

當歲二歳長成
發達ノ度

洋種生三尺四
五寸二歳迄ノ
發達ハ四尺六
七寸ニ至ルベ
シ

徳川公ハルシ
ヤ馬ヲ賜フ

ハソノ馬終生ノ發達ハ此時ニアリテ三分中殆ト二分餘ヲ占ムレハナリ大凡和種生三尺ソノ長成ノ極
点四尺八寸ニ至ルトスルモ二歳ノ中ニハ必ス四尺四五寸ニ達スルナリ(飼立ニ注意スルモノ、例ヲ
舉ク)此ノ如ク發達力ノ盛ナル時ナレハ飼立ノ注意モ此時ニ在テ最其適度ヲ見サルヘカラス不足ナ
レハ必ス成長ヲ押へ過レハ或ハ病ヲ醸スノ畏レアリ地方ノ舊習ハ當歲ノ冬ハ全ク母乳ニ頼リ稍別ニ
飼料ヲ與フ若シ母又孕ミ月重ナリ乳ヲ離セハ更ニ母ニ頼ラサルノ飼料ヲ與フ或ハ之ヲ離サレハ母ハ
二頭ヲ乳養スル爲メニ駒ニ妨アラザレハ必ス母ニ害アリ母若シ孕マザレハ駒ハ乳ヲ離レス往々二歳
ノ丈殆ト母ニ均シテ乳ヲ舐ルヲ見ル凡テ駒ヲ飼フノ注意ハソノ料ヲ寡シテ頻々ニ之ヲ飼フニ在リ夜
ト雖モ之ヲ飼ヒ或ハ喰フニ任セテソノ度ヲ定サルナリ今ハ二歳秋市ノ利ヲ競ヒ當歲乳ニ依ルノ際ヨ
リ厚ク飼ヒ怠ラス故ニ舊ニ比スレハ長成最速ナルコトアリテ和種二歳ニテ五六寸ニ上ルモノ往々出
ルニ至レリ更ニ洋種ヲ雜テ進歩スルニ至ラハソノ一新ハ必ス期スベキコトナリ

又云二歳ヲ過レハ舊習自ラ調習家ノ手ニアリテ盛岡ニテ馬喰ニ任シ十分ニ飼立シメ馬責役ノ仕込タ
ル時ナリ飼立モ自ラ異ナリトス此篇ノ主トスル所ニ非ル故ニ略シテ言ハス

又云右ニ舉ル所馬種及ヒソノ幼時ノ取扱等大率此ノ如シ今日ニ至テハ馬ノ用各異ニシテ種類モ亦從
テ異ニ飼立モ亦異ナラザルヲ得ス恰モ學藝ニ専門アル如シ産馬家ニ在テモ亦然ルノミ

徳川吉宗公ニハ馬種改進ノコトニ意ヲ注カレ享保ノ始ヨリ元文年間ニ至ルマテ屢海外ノ馬ヲ載來ルコ
トヲ命セラレソノ中南部侯ニモハルシヤ馬ヲ下シ賜レリ一戸五右衛門松尾紋左衛門兩家ノ私記共ニ載
セテ此事アリハルシヤ馬ハ公義ヨリ賜ハリタル大切ノ馬ナレハ惣御野ノ掛リ持トシテ一層念入取扱致
スベキコト云々

又ハルシヤ國ハ五千五百里外ニシテソノ國善馬多シ云々ノコト見エタリ之ヲ放チタルハ住谷牧ニシテ
纔ニ三戸役所ヲ離レタル近方ノ地ナレハ取扱ノ便宜モ好ク且住谷ハ古ヨリ名馬産出ノ地ニシテ當時ハ

明治三年ニ勸
農局ヨリ洋馬
ノ下種アリ

艸モ宜カリシ故ニ殊ニ此ニ放タルモノナルベシ今ソノ塚ハ三月町ヲ北ニ距ル半里餘元木平ニアリ碑ノ一面ニハ鹿毛ニ白九歳長四尺九寸五分異國春砂又一面ニハ寛保三年二月十七日並ニ唐花のみちのくに散る春砂哉ノ句アリ蓋シ馬醫某ノ追善ニ手向タル由ナリ

此馬賜ハリシハ何年ニシテ種用セシ景況等ハ明記ナケレドモ何レ元文以後ノ事ナルベシ九歳ニシテ斃レシナレハ年間モ短カリシト見エタリ但シ當時ノ民情殆ト好マザリシト見エテ寶曆七年馬別當上伸ノ書ニ春砂ト申唐馬ノ駢今住谷野ノ種馬トナリテアリシカ此ヨリシテ産スル所ノ駒ハ宜カラス永ク之ヲ放置カハ元來ノ住谷種ハ滅亡スルニ至ルベシ故ニ除去申度云々トアリ因テ此馬ハ盛開表ヘ引揚ケトナリ其後ハ如何ナリシヤ復々未タ詳ナラス或ハ謂フハルシヤノ種ハ又重村ノ内某ノ家ニ系統ノ遺レルアリ或時此系ノ一歳馬ヲ買シ人アリ初メハ見ル形ナキカ如クナリシカ成育ノ後ニ大ニ器ヲ成シタリト因ニ云當時洋馬ノ體格ハ詳ナラサレトモ地馬ト遙ニ異ナル骨相タルハ疑フベカラス僻遠ノ民目曾テ偉物ヲ見シコト無ク偶見レハ之ヲ比シテ巴カ祖先ヨリ傳レル物ニ過ルナシトスルナリ維新後ニ初テ此地ニ洋馬ノ下種アリシハ明治三年ニ勸農寮ヨリ林某ニ命シ二頭牽來ラシメラレシカ士民ハ悦ハザリシナリ某ハ因テ大ニ失望セリ余ハ同五年ニ英國産ノ種父黑鹿毛星丈九寸ナルヲ牽來七戸支廳ノ長官ニ謀リ地馬ニ撰テ交尾セシメントス長官喜ヒ懇ニ諭セシカ牽來レルノ牝皆適當ノ配遇ニ非ス之ヲ問ヘハ曰民情未タ之ヲ悦バサルナリト但シ英馬ヲ以テ不良ナリトスルニモ非ス恐ル、所ハ駄用スレハ鞍ニ適セス丈高クシテ負荷ニ便ナラスナトイフテソノ馬ノ用所ニ支エシナリ宜ナル哉春砂ノ子孫遂ニ除去セラレシコト余カ英馬ノ種ヨリハ牝牡數十頭ノ子アリテ大ニ創業ノ進歩ヲ助ケタリ中ニボンレチ一號ハ西郷從道君ニ愛セラレ一時名聲ヲ施セリ

又云余春砂ノ塚ヲ見ルニ官道ノ側ニアリ村民之ヲ相書社トイフ護馬神ノ稱ナリ維新前迄ハ空ニ發ル老松モアリシカ廢社トナリテ老松ハ所跡ノ殘レルノミニシテ纔ニ小杉三四株アリシノミナリ

アラビヤ馬ノ
最初ノ渡來

此唐馬ハケイ
スル氏ノ所謂
驢馬ノ類歟南
部家ニテハル
シヤ馬ヲ唐馬
トイヒシトハ
異ナルベシ

蘭人ケイ
氏留十一年

海外ノ馬種ニ係レルコトハ尤意ヲ注スル所ナリ因テ近古以來陋聞ノ件々ヲ左ニ擧ク然レトモ猶必ス遺漏アルベシ

天正ノ末年ニ豊臣秀吉公ノ時葡萄酒人ハソノ教法ヲ開クベキ便宜ヲ求メン爲メニ來朝シ種々精巧ナル人心ヲ動スベキ物ヲ獻シタリアラビヤ馬モソノ中ニアリテ公之ヲ覽テ殊ニ大ニ感賞セラレタリ公ノ氣象ニテ惣テ彼ニ優レル物ヲ以テ答贈セント差配リ職工ニ命セラレシカ獨アラビヤ馬ニ至テハ此ニ報ユベキ物ハナシト嘆セラレシ由ナリ但シ此時ハ二頭載來リシカ一頭ハ船中ニテ斃レタリ此事西教史ニ出ツ

次ニ水戸黃門光圀公ノ事アリ余嘗テ德川武昭公ニ從ヒソノ大能牧場ニ遊ヘリ此牧場ハ光圀公ノ創立スル所東奥街道ヨリ又東ニ入ル五里餘ノ奥ニアリテ昔時ノ遺跡及ビ後ニ齊昭公遺志ヲ繼キ補築セラレシ跡共ニ現存ス此ヲ看護セシ佐川氏アリ今ソノ家ニ光圀公ノ時ノ舊記アリテ阿蘭陀駁朝鮮駒等ノ事アリト云但シ蘭人ハ瓜哇ヨリ來リシコトナレハ必スアラビヤ地方ヨリ載渡リシナルベシ朝鮮ハ昔ヨリ馬術ノ行ハレシ邦ト開ユレハ馬種ヲ求メラレシハ由アルコトナルベシ

長崎志ニ延寶二年ニ大長ノ馬牽渡ル同三年ニ鳴毛ノ馬牽渡ルトアリ泰平年表ニ德川有德公ノ時唐馬載來ルベキ旨命セラレ享保五年清人伊季九船ニテ唐馬二頭載來ル同七年ニ當時專用ノ馬醫書持渡ルヘキ旨命セラレ施翼亭元亭療馬集ヲ携來リ馬醫其人ヲ召サレテ劉經光之ニ應シ來リシ等ノ事トモアリ

又長崎志ニ同十年ニ阿蘭陀人ケイスル御用ノ馬五頭初メテ載セ來ルトアリ但シケイスルハ馬術馬療等ノ御用ニテ召寄ラレ十一ヶ年我邦ニ留リ江戸ヘモ來リ屢々賞令等ノ賜アリ著ス所阿蘭陀馬書五卷ハ大通詞今村市兵衛ノ譯セシモノナリ 同書ニ寶曆十二年瓜哇國産ノ牡馬二疋牽渡ルトアリ

阿蘭陀馬書ニケイルスカ數頭ノ馬ヲ評セシ内ニ唐馬ハ前短ク後高シ此ハ韃國ノ産ナルベシ朝鮮駁ハ

横岡チハルシ
十牧ト謂ヒシ
コトアリシヤ
ニモ聞ケトモ
未タ明記ヲ見
ズ

面大キクエリ細ニテ釣合宜カラス云々ナトイヒシ事アリ
同書明和ノ年ニハルシヤ馬ノ飼料トシテカチヤンホーン(但シ豆類)ハアルトサアト(但シ稗ノ類)ヲ
持渡タリ

同書ニ天明三四年頃ニ和田倉ノ御廩ニテハルシヤ鹿毛ヲ見タリ明和ノ年渡來ノ馬ナルベシヤト通詞
今村大十郎ノ書キ加ヘアリト見ユサレハ明和ノ年ニモ渡來セシト見エタリ史科稿本ニ元文二年ニ至
ルマテ渡來ノ洋馬凡テ二十八疋ニシテ牝馬モ亦ソノ中ニアリ云々此ニ因テ考レハ産出ノ馬モ必ス遺
リシコトナルベシ

御實記付録ニ牧馬ノ事屢々沙汰シ給ヒケレハ南部仙台ノ馬政大ニ調ヒ年々ニ貢スル良馬昔ニ比スレ
ハ十倍セリ云々トアリ此事ハハルヒヤ馬ヲ賜ルコト、寶曆年間南部家馬政改革ノ事ト相參看スベシ
仰高録ニ房州嶺岡總州佐倉小金等ノ牧馬ノ事ヲ御沙汰アリテ父馬ハルシヤナト遺サレ小納戸土岐大
學頭朝澄掛ニテ御馬役齋藤三右衛門往來シテ任シ勤メタリ甲州ニモ牧馬ヲ置ントノ思召アリテソノ
地ノ馬ヲ牽來ラシメ吹上ニテ御覽アリ云々

同書ニ川安邸ニ朝鮮馬場ヲ設ケ置レシコトアリ此ハソノ馬ニ縁アリテ名ケラレシコトナラン但シ近
隣且渡來ノ數モ多カリシヤ一々記載ナキナルベシ

徳川慶喜公ノ時ニ佛帝第三世ヨリ精撰ノ牝牝馬合二十六頭贈リタルコトアリ此ハ我ヨリ誤卵紙ヲ贈
ラレンノ國益ヲ爲セシヲ以テ報ユルニ我ノ有益ニシテ殊ニ將軍ノ好ナルヲ聞キタリト答贈セラレ
シモノナリ其馬或ハ胤ヲ遺セシモアリシヤナレトモ惜クハ我邦ノ騷擾ニ際シ散亡シテ殆ヲ奏セス猶
殘馬現存スルモノ余曾テ下總種畜場ニ於テ之ヲ見シコトアリ

明治十九年ノ時事新報ニ佛帝第三世ナホレオンヨリ舊幕府へ贈タル二十六頭ノ馬今尙存スルモノハ
ハリ一號ノ牝馬ノミナルカ本年二十九歳ナレトモ頗ル健ニシテ目今駒場農學校中ニアリテ學術ノ一

我邦馬外ニ出
ツ

材料トナレリ云々

洋馬ノ我邦ニ入シモノ安政年間開港以來彼人ノ自ラ持渡リシト我邦人ノ買入レシト必ス有リシコト
ナラン然レトモ多クハ罽丸ヲ去リ種用ニハナラヌモノナリ但シ近來種用ノ買入ハ別ニ考アリテ今ハ
収載セス

我邦ノ馬ヲ他出セシコトハ有徳公ノ時蘭船ニ托シテ遺サレシコトアリ何ノ爲メナリシヤハ詳ナラス
萬延年間ニ英佛人ノ清國天津ニ攻入セシ時我橫濱ニテ馬ヲ買入レ軍用ニ充シニソノ馬弱フシテ用ヲ
爲サ、リシ由ニ聞ケリ近ク佛國大博覽會ノ時ニ我邦ノ上等馬ヲ撰ヒ五戸村三浦傳七家畜ニテ河原毛
牡馬四歳丈九寸ナルヲ勸農局ニテ御買入アリテ會場ニ出サレタリ此時佛人ハ評シテ佛國ニテ馬種改
新ナキ四百年前ノ馬ナリトイヒシヤニ聞ケリ此評ハ余輩牧畜家ニアリテハ一ハ以テ恥トシ一ハ以テ
爲メニ勵ムベキ後來進歩ノ尺度トモ爲スベキナリ

天然ノ牧艸

昔時野生艸ノ
景況

馬ノ成育ニ係リ最重要ナルモノハソノ食料ナリ山中村ニ寛政年生ニシテ本年九十一歳ナル翁アリ此翁
壯歲ニハ木崎牧ニテ馬捕セシ名十ノモノナリ余曾テ此翁ニソノ記憶セル木崎牧ノ最古キ時ノ景況ヲ尋
テシニ艸ハ長シテ人身ヲ没ス且密生シテ之ヲ行クニ押抜カサレハ一步モ容易ニ移シ難シ故ニ馬ヲ逐捕
ントスルモ馬ニソノ形ヲ隠サル、コトアレハ又容易ニ見出シ難シ爲ニ三十日モ逐尋テテ猶捕畢ラサル
コトアリ且暑ニ向タル時ニハ青艸ヨリ蒸出ス熱氣アリ甚タ此ニ苦メリ今ハソノ事アルヲ覺エス當時ハ
岡ニモ濱ニモ人煙ナク偶濱ニ出テ釣スレハス、アオ、ブリノ類一日ニシテ四十尾餘ヲ獲テ持歸ニ
モ困セシナリ以テ推シテ知ルヘシ云々トイヘリ又今ヨリ三十年前マテモ艸刈ルモノ其身ヲ投シタル
所ニ歩ヲ移サシテ一駄ニ滿ルノ艸ヲ刈リ獲タリ朝ニ出レハ艸露馬上ノ身ヲ濕シタリト余カ來ル時モ藝
々菲々トシテ三尺餘モアリテ遠ク見透ナドナラザリキ英國人モ自然艸ノ美ナルヲ悦ヒ更ニ牧艸ヲ作ル
ニハ及バスト喜ベリ爾來僅ニ二十五年今ハ或ハ尺ニモ滿タス殆ト芝原トナレルモアリ思フニ牛馬ノ數

ハ艸成長ノ割合ヨリ増シ來レル故ニ然ルナラン大ニ注意スヘキコトナリ
試ニ此艸ノ種類ヲ舉ルニ我牧場(即チ所謂木崎野)ニ就テ之ヲ求メシニ凡テ牛馬ノ啖フモノ六十九種アリ
リ之ヲ集メテ明治十四年ノ博覽會ニ出シテ評ヲ請フコトアリシカ中ニ就テ其葉狹長披針形ニ屬セルハ
ブクラ、カヤ、カルカヤノ類四一種ソノ葉楕圓形ニ屬セルハギ、アザミ、クツワカラミノ類二十
八種アリ中ニモ良艸ニシテ概シテムマコヤシトモイフベキモノアリ思フニ此艸ハ即チ當時木崎野馬ノ
名譽ヲ得シ源由ナランノミ

因ニ云六十九種トソノ時目ニ觸タルマテノ艸ナリ後ニ見洩アルヲ省知セリサテ牧畜家ノ最須要トス
ルモノハムマコヤシ艸ナリ然ルニ六十九種中ニ直ノ此艸ナシ古ヨリ苜蓿ノ字ヲムマコヤシト訓ジ此
稱アレハ此艸アルハヅナリ艸木圖説ニハ在所原野ニ多シトアレトモソノ艸果シテソノ能アリヤ否未
タ世ニ見ハル、ヲ聞カザルナリ雜字類編ニハ苜蓿ノ字ヲアサミト解セリアサミノ能ハ類似トスルモ
可ナランソノ解ハ恐クハ妄ナラス漢ニテハ武帝ノ大宛國ヨリ善馬ヲ獲來リシ時共ニ移殖タル由ニテ
一名連枝艸トアリ此或ハ今ノクローバナラン歟今我邦ニテ西洋ヨリ新ニ得タルクローバヲ以テ苜蓿
トシ以テムマコヤシトスルハ名實ニハ適セリトスルモ此ハ近年ノ外遊艸ナレハ我古訓モ是ナリト
ハ爲シ難カラノ果シテ別ニ一種名實相當ノ艸アラハ余輩ノ大幸トイフベキナリ
又云各牧場ニ就キ今時生艸ノ等位ヲ比較スルニ木崎ト蟻渡ハ第一等ナリトスル中ニ艸ノ質ハ優劣ナ
キモ木崎ハ多數ノトキ馬入込シ故ニ衰タリ住谷相内又重ノ如キハ牧未タ廢セザルニ已ニ衰タリ大間
奥戸北野三崎ノ如キハ衰ハ未タ甚シカラザルモ艸ノ質ハ頗ル下等ナリ其他各所生艸天然ノ良否ハ大
ニ關係アルナラント深ク考ル處アルナリ
天然ニ良艸アルカ爲ナルヤ民間一般ニ不注意ナルハ冬飼ナリソノ飼料ハアワ、ヒエ、ソハ、マノ類
ノ藁ニシテ合セテ之ヲカラ物トイフ外ニ貴重スルモノハ刈乾シタルハギナリ飼料ノ爲トシテ殊ニ畑

ニ作レルモノハ青引ナリマメノ未熟ニ葉ヲ合セ刈乾シタルナリ五月ノ耕或ハ遠行ノ用意ニスル位ニテ
常ニハ給スル能ハサルナリ此品々モ何レモ十分ニ給シ得レハ馬ハ固ヨリ能ソノ肉ヲ保テリ僻偶ノ村民
貧困多ク糟糠モ已カ食料ニ飽カサルコトアレハ牛馬ニ不充分ナルハ無理モナキ勢アリ五右衛門ノ上仲
ニモ民家ノ冬飼ハ代官ノ取扱ナリシカ飼方往々宜カラズ或ハ放牧ノ日引出ノ中途ニ倒レ一泊シテ漸着
スルアリ苟モ凶荒ニ係ルアレハ幾頭ノ斃馬アルヤ知ルヘカラズ云々ソノ難情知ルベキナリ故ニ此地ノ
方言ニ廐出馬ノ如シトイフコトアリ瘠羸骨立セシモノ、狀ナリ然ルニ地方ノ人ハ敢テ怪マス怪マサル
モノハ骨立此ノ如クナルモ之ヲシテ青艸ニ就シムル數日間ナレハ忽チ毛色ヲ變シ人ヲシテ驚視セシム
此モ亦甚タ速ナリ故ニ春ノ骨立ハ視做シテ常ノ如ク敢テ意トセザルナリ蓋シ天然牧艸ノ功ナルベシ
因ニ云余モ亦天然艸ノ良ナルヲ頼ミ且當時英人ノ言ヲ信シ牧艸ヲ作ルニ意ナカリシナリ明治七年中
勸農局ヨリ十三種ノ牧艸種ヲ賜リシコトアリテ播施セシカ年々ニ作レル燕麥ノ方ハ便ナリト思ヒ未
タソノ能ヲ見ル能ハス漸悟ヲ又作り始メタルハ四年前ノ事ナリ馬種改新ヲ目的トスルニ於テハソノ
須要ハ飼料ニアリテ飼料又牧艸ニアルハ自ラソノ次序ナリトス
各牧場ニ就キ何事カ最損傷ヲ致セシヤト尋ヌルニ昔時ニ在テハ狼害ナルベキ歟狼時々間出シテ駢ヲ啖
フコトアリテソノ乳スル時ニハ害殊ニ甚シ地方ニハ之ヲ狼カ暴レ出シタリトイフテ提ルコト甚シ因テ
馬別當ノ付屬中ニ獵師ヲ扶持シ置キ各場ノ報知次第ニ出張シテ殺除術ヲ施サシメタリ獵銃彈藥ヲ渡置
キテモソノ功ヲ奏セシハ毒殺ニアリ毒殺ハ由經ノ路ト見込ミ設ケ置クニテ頗ル迂ナリトスレトモ當時
他ニ良術モ無リシト見エタリ若シ之ヲ獲レハ牝一頭ハ一貫五百文牡ハ一貫二百文乎ハ若干錢等ノ懸賞
アリ然レトモ兎角ニ制シ得ス一地方ノ騷キトナルコト多シ或ル年ニハ北野三崎ノ兩場ノ産駒數十頭ニ
シテ纒ニ四頭ヲ殘シ皆害セラレシ事アリソノ他モ時々此害ヲ蒙レリ故ニ時ナラザルニ村方ニ駢付母馬
ヲ預ケ舍ニ飼ハシメ爲メニ大豆一日五合積トシテ渡セシコトアリシナリ他ハ馬或ハ深谷地ニ陥リ海潮

ナイラ病

又クニトイユ
虫害アリ野燒
ニテ之ヲ絶ン
トスレトモ容
易ナラス年ニ
増テ覺ユル也

ニ溺ル等ノ過モ寡カラス只病患ハ案外ニ少カリシト見ユ馬醫役ノ設アリテ時々ノ出張ハ無ニモ非レトモ敢テ治療ノ繁劇ナリシ程ノ事モ聞エス過激ナル流行ノ惡病等ハ記載ナク又故老ノ言傳モナシ凡テ馬醫役ニ係リテノ願伺等ハ記載ナシトイフモ可ナリ外ニ凶歳ニ遇テ民間ニテ竊ニ啖ヒシ惡弊ハ又制シ易カラザリシ事アリト見エタリ天明ノ凶荒ニ木崎牧ニテ三十七頭ノ不足ヲ生シタリ此時ニハ雪消ヲ待テ澤々ノ遺骸ヲ尋求ムルヲ命セシマテノ事ニテ平生ノ嚴密ナルニハ似ザリキ藩牧ニモ此事アリ民間ノ持馬ニ至テハ一層甚シカリシナリソノ委シキハ下ノ民有馬ノ條ニ述ヘ置キタリ

因ニ云余地方ノ馬牛ヲ熟看スルニ疾病ハ至テ少キモノ、如シ其斃死スルモノハ老衰ト食料ノ不良ヨリ出ル衰弱病ト或ハ被傷ナドノ類ナリ自然ニ任セ放シ置ク故ニ被傷ハ自ラ多シ春ノ始メ艸未ク全ク伸サルニ之ヲ放テ艸ニ就カシム故ニ艸ノ青キ所ハ馬牛之ヲ食リ啖ヒ屢深泥ニ陥リ或ハ溝ニ伏スル等ハ年々必無シトセス村民ハ常ニハ抛却シ置クモ此時ニハ怠ラス巡視セリ猶被傷ヲ免レザルナリ流行病ノ事ハ牛ニ春初ニ間歇熱ノ發セシコトアリ村民ハ患牛ノ欲ヲ尋テ啖ヒ得ルモノヲ求メ務メテ之ニ喰ハシム倒ル三日首ヲ擧ケ得ザルモノモ腔中全ク空乏ニ至ラサレハ必愈ユ付ニ八九ハ死ニ至ラザルナリ余カ來テ或ル一年此病アリシノミ馬ニハ病アレハ皆ナイラトイフ感冒病ナリ尋常鼻穴ニ濃液ヲ出シ或ハ突トシテ腫部ヲ見ル伯樂(地方馬醫ノ稱)ニ一定ノ藥劑アリ又賣藥ニモ奇効アリトイフ尤患トスルハシツナイラナリ此ハ傳染質ナリ因テ甚畏レ何村何家ニ此病アリトイハハ舌頭ノ觸レタル艸葉ニモ傳染ノ毒アリトテソノ馬ノ往來ヲ好サルナリ余來テ或ル一年一二村ニ此病發セシヲ聞シマテナリ馬牛共ニ天然物ノマ、ニテ生息セシ故ニ病モ亦簡易ナリシナルヘシ村民ノ所有馬ニハ年々ノ春ニ豫防ノ爲メ血下ケトイフコトアリ四蹄ノ爪首ノ裏ヨリ放血スルナリ使役馬ニ施セハ健ニシテ能肥ユトイフ又齒根ヨリモ放血スルナリ之ヲ施セハ食氣進ムトイフ牧場ノ馬ニハ曾テ此事ナシ但シ血下ケモ獨リ此地ノミノ習慣ニ非スシテ舊ク支那流ヨリ來リシナラン

經費ノ略調

尤注意シテ調差シタキコトハ牧場ニ係ル經費ニシテ産出ヲ以テ之ニ對スル出入ノ算當ナリ然レトモ此ハ記載ナク尤不分明ニシテ今ニシテ調差シ得ヘキ事ニハ非ルナリ因テ不分明中ノ徵證アルモノニ基キ大計上ノ想像トナスノミ

因ニ云御野馬ノ一官所ヲ設ケシ上ハ金錢ニ係リ馬ノ賣買受拂等ノコトアリ多數ノ時ハ代官ニ係リシヤニ見ユレトモ官所ニモ出納帳ハ無ケレハナラヌ等ナリ今先役引請ノ書目中惣御野請書帳御用日記等アリテ出納一部ノ帳ナキキハ必日記ニテ事濟シナラン歟又一戸松尾兩家ノ書ヲ閱スルニモ賣馬ヲ記シテ頭數代價共ニ付セス頭數ハ記セトモ亦價ヲ付セズ頭數代價共ニ記セシハ眞ニ稀ナリ本文ニ出入ニ係リ證記ナシトスルハ此譯ナリ但シ往時ニ在テハ百事易簡ナルニテ必シモ怪ムヘキニハ非ルナリ

此ニ牧場ノ利収ヲ述ルニ産駒ニ基キ時々ニ拂出ノ外ハナキナリサテソノ割合ハ寶曆五年九牧惣合馬五百二十一頭ノ母ヨリ産出ノ駒ハ百二十二頭アリ又明和六年ニハ七百四十六頭ノ母ヨリ産出ハ百八十四頭アリ前後割合ハ詳ナラサレドモ大同小異大低二割二三分以上ノ産出ナルベシ大數ヲ自然ノ放牧ニ任セ且三歳ヨリ算入セシ故ニ此位ノ割合ナラン且馬ハ牛ト違ヒ産殖寡キ件々アリ第一ニハ懷胎ハ十二ケ月ニ係ル故ニ年々ノ孕ミハ自ラ期シ難シ縱ヒ能ク孕ミ三ケ年續トナルモ後ニハ季後レノ産出トナリソノ駒ノ体骨未タ健全ナラサルニ冷寒霜雪ニ迫ラレ必爲メニ損傷セラル、無キ能ハス孳尾ノ情ハ時アリテ發ス苟モ時ヲ空ウスレハソノ一ケ年ハ孕スシテ過ルナリ昔ヨリ墮胎ノ癖アルモノトス冬ノ始メ俄ニ冷氣ニ侵サレ或ハ食物ノ變ナトニ殊ニ多シ又厩ニ入りテ後一種流行病ノ如ク一厩相感スルコトアリ臨産及ヒソノ前後ニモ損傷ナシトセスシテ當歳ニ歳成育ノ間骨猶柔ニシテ脚節等ノ患モ發シ易シ且外觀ノ爲ニ價ヲ減スルモ亦多シ右等ノ爲メ成長ヲ添得テ金ニ換ルマテニハ又幾分ヲ減スルモノト算當セサルヲ得ス然トモ實際利収ノ原資トテハ外ニハ又無キナリ

藩政ニ非レハ
又此舉ナケン

其賣拂ノ法ハ除馬トイフテ牧場ノ定額ニ餘ル時除テ拂ヒ牡ハ二歳ノ時必ス拂ヒ臨時ニ調差伺濟ノ上ニ
 拂フ等ナリ之ヲ拂フニ入札拂ハ三名以上ノ票價アル高点ニ拂フナリ他郷拂ハ五戸郷ヨリ七戸郷ニ拂フ
 ノ類他領拂ハ八戸秋田等ニ拂フノ類ニシテ年々拂フコト無キハナシ然トモ實曆頃ノ調ニハ拂ハ眞ニ寡
 ク只慰勞等ノ爲メニ下賜セシモノナリ後ニハ御禮錢ト稱シ一頭ニテ一貫文位ヲ上納スレハ下賜スルナ
 リ或ハ下賜セントスルモ願人ナク止ヲ得ス扶助シテ飼終ラシメシコトモアリソノ明記アルモノヲ舉ル
 ニ實曆七年ニ住谷ノ馬三頭ニテ價三貫五百文同八年ニ北野ノ馬二十頭ハ御禮錢同九年ニ蟻渡ノ馬一頭
 ハ三貫五百文明和三年ニ住谷相内蟻渡合テ十五頭ハ四十八貫五百文其他ハ拂ノ頭數ヲ記シテ價ヲ記サ
 ス天明二年ニ概ノ修繕料ニ當テ百二十頭ノ拂アリテ此ニモ價ヲ載セス入札他郷他領等ノ拂モ寛政頃ヨ
 リシテ追々ニ審密ナルコトニテ特ニハ價モ亦稍貴ヲ加タルモノ、如シ文化元年ニ五戸ニテ二十頭ノセ
 リ拂アリテ金二十五兩ト錢五貫文同時ニ福岡ニテ二十二頭ハ金三十二兩一分ト錢五百文文化ノ末ニナ
 レバ引出シテ拂フコトアリ即チ他領拂ナリ嘉永安政頃ニ至テハ一頭ニテ二十兩餘ニモ至レルモノアリ
 シトイフ

因ニ云續太平年表ニ天保十三年中江戸ニテ馬商ハ達書アリ上乘ハ二十兩タルベシ秀逸ナルモ三十兩
 ニ過クベカラス犯者ハ賣主買人共ニ過失トス云々亦以テ時價ノ參考ト爲スベシ
 出費ニハ役々ノ取扱ヲ始メ土手柵木ノ修繕駒捕ノ人夫冬飼及ヒ種々ノ雜費ハ皆間斷ナキ要件ナリサレ
 ハ差引ノ上ニハ巨多ノ不足ハ言スシテ知ルベキナリ
 因ニ云明治三年ニ斗南藩ニテ大間奥戸ノ二牧ヲ引受ケ柵木修繕ノ人夫賃ヲ算セシニ拂馬代ニテハ多
 分ノ不足ヲ生スル割合ニテアリシナリ
 差引不足ノ證トスヘキハ上ニ述シ如クニシテ追々牧場ノ地所内ヲ察スルニ寛延年間ヨリ已ニ住谷相内
 ヲ廢シテ田畑トスレハ百五十石ノ収利ヲ得ヘシトノ着目アツテ文化頃ニハ奥新田トイフテ開起モ着手

具眼ノ人大算
ヲ視ル亦此一
理ナルベシ

牧場終局

セリサレハ場内ハ狹クナリ馬産モ寡ケレハ別ニ代場ヲ見立テントテ切田村ソノ他ニテ見分セシトモア
 リ然レトモ遂ニ行ハレス又節儉ノ申立ヨリ住谷相内又重蟻渡等モ放置ニスベシトイフ説モ發セシカ地
 勢檢査ノ上ニ林木ソノ外據ルベキ所無ケレハ目途ナシトイフ中ニ蟻渡ハ海ニ沿フ故ニ然ルベシトノ説
 モアリシカ目下ソノ爲メ修繕料モ寡カラストテ止ミヌ又藩政ニテノ心配ハ九ヶ牧場ハ夫々名モ高クソ
 ノ圖マデモ幕府ヘ公ケナリシ程ノコトナレハソノ得失ニハ拘ラス之ヲ廢止スルハ名義ニ於テ妥ナラス
 トノ意味モアリ實際内情ハ然リシナラン
 又一説アリ南部ノ國タルヤ極北ニアリテ西ハ山ニ限リ東北ハ海ニ接シ纔ニ一路仙台ニ通スル耳サテソ
 ノ國內ニハ人ノ物産アルニ非スアル所ノモノハ米豆ト牛馬トナリ故ニ入金ノ路ハ極メテ狹ク融通甚惡
 シ而シテ米豆ノ如キハ他ニ類産多シ馬ニ至テハ我邦ノ冀北ハ言ハスシテ此地ヲ指サ、ルナク殊ニ藩ノ
 交際ナトニアリテハ金銀外ノ功用アリシナラン故ニ物ト物ト相對算スレハ馬産ニハ不足アレトモ此ニ
 因テ入金ノ路ヲ開キ一藩ノ融通ヲ助ケタルモノハ馬ノ功必ス居多ナリシナラン故ニ執政中或ハ大算ヲ
 見シ具眼ノ人アリテ通覽セシヤモ知ルベカラザルナリ
 維新ノ始兩部家削封ノ時三戸五戸ヨリシテ産馬ノ場所ノ上ケ地トナリ明治二年三戸縣ヲ置レシ時現
 馬九千頭餘ハ馬ヲ合セテ之ヲ引渡シタリ同三年斗南藩ヲ移シ置カレソノ内牧場ハ住谷相内又重蟻渡
 大間奥戸等アリシカ馬ノ猶殘リシハ大間奥戸二牧ノミナリ時ニ殘馬猶二百頭餘モアリシナラン收入ヲ
 以テ之ヲ維持シ難ク亦廢止セリ北野三崎ハ合一トナリ盤手縣ニ屬セシカ其全廢セシハ明治六年頃ニア
 リト云此ニ至テ藩ニ係ル牧場ノ事畢ス
 因ニ云大間奥戸ノ牧ヲ廢セシ時ニソノ馬ノ形容ヲ語レルヲ聞シニ野生ニテ永ク相續キ來リ猛獐ナル
 野獸ニ異ナラス趙々トシテ容易ニ捕縛スベカラス漸ク捕縛スルモ一馬ニ人夫四人或ハ三人ニシテ制
 シ得タリ日ヲ經ルニ至テハ必シモ然ラザレドモナカク々々手數ナリシナリ

此ヨリ民有馬ニ移ル

(4 2)

競賣市ノ性質

競賣ノ開ケン年代ハ詳ナラズ

一戸ニ某屋トイフ京ヨリ出店アリ砂金ニテ賣買セシ話今猶殘レリ二百

南部家ノ馬政ニ二類アリ一ハ藩牧ニシテ上ニ述タル九牧場是ナリ一ハ民牧ニテ村民ノ私有馬ナリ方言ニハ里馬トモイヘリ藩ニテ之ヲ保護シ二歳牡馬ヲ賣ルヲセリ駒トイフ牧場ノ馬トハ産出ハ勿論掛役人ヨリ金ノ出入等ニ至ルマテソノ性質全異ナリトス此ヨリソノセリ駒ノ顛末ヲ述レドモ一切記載ノ據ルベキナシ然レドモ當時ノ掛役人ニ故老ノ猶存スルアリシ故ニ正シテ徵セシモノナリ

因ニ云記載ノ全無トイフニ至リシハ又維新ノ始牧場ノ舊記ヲ失シト同情ナリ
賣買ニ競争シテ價ヲ定ムルヲセリトイフ俗言アリ地方ノ舊習ニ據ル字ヲ用テ概駒トイフ又驪馬トモ書ケリ今余ハ競賣トス村民所有ノ駒ヲ二歳ノ秋ニ市場ニ出シ自他ノ馬商ヲシテ其意ノマヽニ競賣セシムルナリサテソノ票價ヲ以テ部割金ヲ納ル故ニ一般ニ之ヲ出サ、ルヲ得ス持キニシテ賣ルヲ欲セサルモノモ一トタヒハ競場ノ票價ヲ經テソノ部金ヲ納レ而ル後ニ已カ自由ト爲スナリ故ニ或ハ野ニ逸シ或ハ病ニ罹レルモ後ニハ必スソノ規則ヲ踏サルヲ得ザルナリ
競賣市ノ開ケンハ何年代ナルヤ未タ明記ヲ見サレトモ寶曆頃ニ牧場馬ヲ取捨スル爲メ村々ヨリ母駄買入ナトスル時ハ馬商ヲ聚メテ票價セシメタリ此等ハ濫觴ナルベシヤ或人曰安永年頃ヨリ始リ追々寛政ノ末頃ニテ形ヲ成セシナルベシト又八戸藩ニテハ文政八年ノ秋ヨリ始レリト云但シ本藩ニ倣シモノナリ何ニ由テ此體裁ヲ成シタリト尋ヌルニ藩政ニテ全ク人民救助ノ意ニ出ツ何トナレハ此地方ハソノ始メ人民間ニテ外藩々ヘノ往來交通ナク人工物産ノ交換スベキモ無キ故ニ一般散布ノ實貨極テ寡ク砂金融通ノ話ナト今ニ傳レル位ノコトニテ不融通ヲ極メタルコトハ想像セラレタリ只アルモノハ天産物ニテ米大豆駒等ノ外ナラサルモ此又各ソノ一方ニ滞在スルノミ花卷ノ一方ニハ米産ニ偏タル故ニ時トシテハ腐敗米ハ之ヲ橋上ヨリ投ケ棄テタリ三戸地ノ一方ハ大豆ナトヲ投ケ棄テタリ馬ハ到處ニ産シソノ數自ヲ入用ニ剩レルコト居多ナリ而レテ牡馬ノ如キハ牧場及ヒ村々ニ皆規則アリテ二歳ヲ過ルモノハ嚴シソノ野放ヲ禁シタリ此ハ固有産馬地ノ着眼ニテ何レモ擇タル種父アルコトナレバ二歳以上ノ混

定例ニテ永年平均ノ相場ヲ定ム
色換

(4 3)

入シ種ナラ亂タルヲ防タルモノナリ右ノ次第ナレハ野放ハナラス販路ハ無シ牡馬ノ産出ハ一ト方ノ厄介物トナリ民情止ヲ得ス竊ニ之ヲ溪河ニ投シ又曰ナトニ覆死セシメタリソノ爲ニ棄馬嚴禁ノ制札ヲ村々ニ建テ、堅ク制セシニテモ亦知ルヘキナリ故ニ藩政ハ此三物ニ於テ御定例トイフ永年平均ノ相場ヲ立テ之ヲ買上テ以テ融通ノ補トナシタリ時ニ一般人民ハ之ヲ特恩ナリトシテ請願セリ士族中ニモ往々地方持ノ人アレハ此三物ニ於テノ不便ハ同様ノコト故ニ皆定例法ノ買上ヲ誠願セリ方言ニ之ヲ色換ト唱フ物ヲ以テ金ニ換ルコトニテ一般ノ通語トナリ居レリ此等ニテソノ救助ヨリ出タル状態ハ明ナリトス

因ニ云種父ヲ精撰シ溪河ニ投スルノ民情ニモ姑息セス二歳以上ノ混入ヲ嚴禁シタルモノハ實ニ産馬地ニ適セル美政ニシテ未タ他ニ聞カサル事ナリ今ニシテ一步ヲ進メ行ハサルヘカラサルハ罌丸割去ノ法ナルベシ此法ハ享保年中ニ蘭人ケイスル初テ施行セリ維新前後ニハ往々施術セシ人アルテ聞ケリ但ソノ術ハ未タ開ケサリシナリ此地ニテハ明治七年ニ余カ伴來レル英人マキノン之ヲ施術セリ然レトモ一時ノ事ニ止レリ種類改進ノ爲メ一般ニ施術スル事トナルモ亦遠キニ非ルベシ
又云一般ニテ色換ヲ請願セシ由盛岡ノ門閥家ニ毛内伊織トイフ人アリ一人敢テ色換ヲ願ハス時人之ヲ怪メリ後年ニ至テ融通和開ケ三物ノ價自然ニ爲メニ生スルニ及テ此家ノミハ大ニ割台ノ好キコト、レナリ亦沿革得失ノ參考トナルベキ一話ナリ

猶細ニ定例ノ事ヲ述フベシ但シ三物ノ中ニ米ノ事ハ花卷地方ニ係リ運出シテ之ヲ石卷港ニテ取扱タル由此地トハ隔タルコト故ニ開洩シヌ大豆ノ定例ハ錢一貫文(但シ此頃ハ金一兩ニ六貫文換ナルベシ)大豆六斗五升ノ定價ニテ福岡ヨリ二千石餘三戸ヨリ千七百石五戸ヨリ二千二百五十石合セテ五千七百石餘ハ年々ノ定出石ナリ此ヲ人民ヨリ其所ノ御藏マデ運送シ納ムルヲ法トス又助郷トイフアリテ人民ハ半價運賃ニテ御藏所ヨリ野邊地ニ送レリ野邊地ニテ大坂ヘノ津出ヲ取扱タリ太平ノ餘習上ニハ驕奢ニ流

各藩政中往々
此類アラシ
トスヘキニ非
ルナリ
(44)

馬ヲ贈ルニ添
物ヲ以テス

乗金

勿セリ

レ易ク用度ハ毎ニ不足トナリ易キ故ニ大坂ノ會計不足トナルコトアレハ又別段大豆トイフ名義ニテ御
買上ノコアリ人民ニハ撲ニシテ其代價ノ如何ナトハ敢テ問フモノナシ然ルニ追々世上ノ便開ケ大豆ノ
價愈貴キニ至テモ昔時定例ノ價ハ故ノ如シ馬モ亦然リ馬ノ定例ハ民有ノ牡二歳ヲ競賣場ニ出セハ競賣
ノ上ニテ本馬代トシテ金一兩ツ、馬主ニ與ラレソノ上ハ公納トナリタリ棄馬ノ竊ニ行ルル時代ニアリ
テ一兩ハ極メテ特恩ナリトス若シソノ馬宜カラス一兩ニ充タサレハ納メニナラス馬主ニ任セラレタリ
馬主ハ致方ナケレハ蕎麥或ハ大豆類ヲ添ヘテ馬商ニ頼ミ強テ持去ラシムルノ外ナク頗ル困メリ一兩ヨ
リ上ル金ハ之ヲ乗金トイフ乗金ハ一兩以上五兩マテニ一段アリテ五兩トナレハ一分ノ賞金ヲ與フ十兩
ナレハ二分ヲ與フトイフ割合ナリ但シ當時十兩以上ノ價アルモノハ先ツハ無カリキ後々ニ至テハ二十
兩位マテニナルモノモアリシカ此ハ眞ニ稀ナリ又後ニ細カニナリテハ一兩以下ノ馬ニテモ勿セリトイ
フコト始リテ一匁以上ナレハ半ヲ納メ馬主ニハ半ヲ與ヘシナリ一匁ハ當時百文ナリ但シ五戸七戸ニハ
一兩以下ノ賤モノハ極メテ稀ナレハ此ハ三戸ソノ他馬品下等ノ組々ニ行ハレタリ此モ世間開ケ追々ニ
馬ノ價ノ昇リタルニモ拘ラス定例ハ故ノ如ク即チ馬ノ價十兩ナルモ馬主ノ手ニハ本馬代一兩ト賞金二
分ノ外ナラス民情此ニ至テ復不足ナキ能ハス牝ヲ産スレハ祝ヒ牡ニハ肩ヲ皺メタリ故ニ棄馬ノ嚴禁ハ
遂ニ廢止シ得ル能ハス維新ノ日ヲ待テ始テ共ニ新ナルコトトハナリタルナリ
因ニ云此馬ヲ棄テタル話世人或ハ怪メルヤモ知ラサレトモ余カ此地ニ來リテモ牛犢ニ蕎麥或ハ大豆
ナト物ヲ添ヘテ贈リタルヲ聞シコトアリ今モ大間奥戸ナトニテハ二歳駒ノ扱ニ困リ居ヤニ聞ケリソ
ノ昔ハ想フヘキナリ
又云維新前ニ牝馬ノ産出ヲ喜ヒタルモノハ自由ニ拂出シ又自由ニ野牧スルノ便アレハナリ其後ニ至
テ牝馬拂ノ景況ヲ見ルハ三歳ニ至レハ賣ルモノトシソノ春ノ新軟艸ニ就カシメ廐出ノ糞ヲ療シテ舊毛
ヲ一掃シ方ニ五月田殖畢リシ頃ヨリ始ムルナリ賣ル者買フ者此ノ期節トシ客商ノ來次第又見込アルモ

販路ヲ開キ
最初ノ着手

貸下ケ馬

(45)

ノハ他方ヘ引出等不斷ニ賣買アリ然ルニ年中ノ金高ニ至テハ牡二歳ニ三部金ヲ納テモ牝ノ價ハ及ハ
サルコト遠キナラン故ニ今トナリテハ人情モ亦一變シ牝ヨリ牡ノ産出ヲ喜テ方ニ相反スルコトナリタ
ルナリ
又ソノ地ニ地頭アルヲ給所村トイフ此村ヨリ出セル駒二歳モ部金ヲ納ムルハ一般ナリ但シ乗金ノ中ヨ
リ地頭ニハソノ三分一ヲ與ヘシナリ又地頭ノ望ナレハ馬ニテ與ヘシコトモアリ此ヲ指馬トイフ後ニ文
政頃ヨリ指馬ハ廢止トナシヤハリ乗金ノ中ニテ分配スルコトニ改メタリ
後々ヨリ此藩政ヲ評スレハ過酷ナル如クナレトモソノ始ハ馬ノ善惡ヲ問ハス成育セシメントノ意ヨリ
出テ一方ニハ乘馬ノ令ヲ出シテ嚴制シ一方ニハ買上ノ路ヲ開キ國中ノ二歳ハ盡ク平均一兩ニテ買上ケ
ソノ上ニテ仙台岩屋堂邊マテ引出シテ賣捌カシメタリ此時ニハ藩損ハ必ス多カリシナランカ民間ニテ
ハ大ナル幸福ニテアリシナリ是藩政ニテ販路ヲ開キ馬産ヲ勸メタル最初ノ着手ニテ爲メニ名稱ヲ施シ
自ラ遠客ヲ引キ途ニハ居ナカラ収利ヲ見ルノ便宜トハナリタルナリ
藩政ノ厚護ニテ種馬貸下ケノ舉アリ貸下トイフモノ、下賜ルモ同シ故ニ下民ノ常語ニハ皆下サレ馬ト
イヘリ此モソノ始ハ何時ヨリ一般ノ定規トナリタルヤ詳ナラサレトモ九ヶ所ノ牧場ヨリ出ル二歳駒ニ
擇シハ勿論除馬乗用下リ馬等ヲ追々貸下ケテ漸次ニ定規トナリソノ盛ナルコトニナリタルハ文化年頃
ニ栗谷川信藏トイフ人アリ代官ニ屬スル牛馬役ニテ馬術ニ達セリ信藏ノ建議ニ佐藤鞞負ノ取扱ニテ父
馬ノ貸下ヲハ一層注意ヲ加ヘ望次第ニハ三四戸ノ村落ヘモ貸下ケテ許ストイフ程ニセシ故ニ里馬一般
ノ景況ハ此ヨリ大ニ面目ヲ改メ二歳モ初テ良駒ヲ見ルコト、ナレリソノ貸下ケハ皆藩ニテ買上タル上
ノコトナレハ競市場ノ部金ハ大分此等ノ事ニ費シタリ然レトモ信藏ハ數年勉強ノ上ニテ馬政モ舉リタ
ル故ニ差引上ニ初テ幾十兩ノ益金ヲ見ルニ至リ爲メニ褒賞ヲ蒙リシトナリ但シセリ駒金ノ有益トナリ
タルハ此時ヲ初トスルナルベシ嘉永頃ニナリテ小保内修トイフ人貸下ケ馬ノ事ニ熱心シテ馬數モ次第

ニ増加シ五戸一組ニテモ一萬七千餘頭アリ又慶應頃トナリテ減シタレトモ一萬五千四百餘ニ下ラス
 ソノ頃一組ニ貸付タル村々ノ父馬ハ二百二十頭ハアリシナラン此外ノ組々モ例推スベキナリ
 文化度ニ信藏始ノ勉強セシ功モ災厄ニ罹リシハ天保度ノ凶荒ナリ此時牛馬役ナリシ櫛引周右衛門トイ
 フ八十餘ノ老翁アリ里馬ニ係ルコトハ能ク記憶シ勞ヲ厭ハス余カ爲メニ説示シタリ(前後ノ記事ソノ
 説ニ因ルモノ多シ)天保凶荒ノ説ニ云時ニハ連年ノ飢饉ニテ民間ノ食糧ハ全ク空乏トナリ納税ナトハ
 勿論ニ之ヲ缺キ計盡テ馬ヲ食ヒ馬ヲ盜ムコト比々ノ流行トナリ藩吏ノ力ニモ制シ得ス日夜ニソノ出訴
 ヲ處分シ毎々鷄鳴マテ困勉セリ人々坐シテ餓死センヨリハ寧ロ一日ナリトモ生キヤウトイフ決心ニテ
 平生ノ良心ヲ失ヒ一種危嶮ノ心トナリ畏ルベキ景況ニテアリシナリ此時五戸一組ノ殘馬ハ減シテ二千
 頭ニモ滿タサリシナラン又或村民ハ此時ノ事ヲ語テ馬ヲ盜ムコト公ケトナリ盜人カ盜メル馬ニ乗テソ
 ノ持主ノ宅前ヲ過ルニ持主ハ是ト見認テモソノ決心ノ狀態畏ロシクテ敢テ咎ムル能ハサリシトナリ想
 ヤラレタル事共ナリ

因ニ云明治三年ニ東京ヨリ馬皮買入ニ來ル堀某ハ斗南藩ニ屬セシ三戸五戸ニテ五千四百枚餘ヲ買得
 タリ皆ソノ前々年凶荒續ニ食料ニ當テシモノナリト云シ由余亦此話ヲ聞シコトアリ

前ニ藩牧ノ條ニ母馬ヲ精撰シ民間ニハ牝馬ノ系ニ價ヲ重スル等ノ事ヲ述シカ民間ノ取扱ハ代官下毎ニ
 母馬ノ等級ヲ定メタリ先ツ七戸ハ第一等ニテ上下ノ二段ニ分チ五戸ハ上中下ノ三段ニ分チ三戸野邊地
 ソノ他ハ下等ト見做シタルナリ改役人ノ検査ノ時ニ髮印ニテ之ヲ定置キ上等ハ他村へ賣出スヲ許サス
 許セシモノハ下等ノミナリ或ハ一時ハ七戸ニテハ他ヨリ買ハス又賣ラスト定メ五戸モ七戸三戸ニモ賣
 ラスト定メタリソノ時田名部野邊地等ニテハ一切買入ルコトナラサリシナリサテ追々ニハソノ通ノ事
 ノミニモ非スソノ本ハ何故ソトイフニ各自種類ヲ重シテ混入スルヲ嫌ヒ且已ヲ肥シテ他ヲ鄙シ利収ヲ
 要スル爲メノ便宜モアリシナラン蓋シ萬ノ交際モ開ケス粗ノ外ニ對シテハ各自一構ヲ爲シタルコトモ

藩牧ノ條ニ已
 ニ民間ノ事ヲ
 述フ參看スヘ
 シ

種馬貸下ノ次
 序

アリシナラン此等モ栗谷川信藏ナトノ注意アリテ馬産ニ精ヲ入シ端緒トナリシナラン藩ヨリ種馬貸下
 モ第一七戸次ニ五戸次ハ三戸ヨリ福岡沼宮内野邊地田名部鹿角ナトイフ次序アリソノ頃田名部ハ下等
 ニ屬セリ後ニ父馬ヲ撰テ貸下ラレシコトアリテヨリ漸ク品位ヲ進メタリ八戸ハ一藩獨立ニテ宗支ノ親
 戚ナルニモ拘ラス凡テ交情疎カリシ故ニ種用馬モソノ藩内村々ノ交換ニ止リテソノ途自ラ狹ク馬ノ改
 進モ届カサリシト見エ一種下等ノ馬ト見做シタリ若シ竊ニ八戸馬ヲ入レ紛ラシ盛岡ニ出ス等ノ事アレ
 ハ大ニ紛議ヲ起シ反則トシテ處分セラレタリ

販路稍々通シ各代官下ニハ競賣市ヲ開クニ至テモ盛岡馬商ノ外ハ八戸ト雖モ他邦トナレハ入込ヲ許サ
 サルナリ各市場ニテハ盛岡馬商ヲ引入ルルモ各村間ニハ入込ヲ許ササルナリサテ盛岡馬商ハ各市場ヨ
 リ買集タルモノハ之ヲ盛岡馬商ニテ一タヒ改役人ノ検査ヲ經テ而ル後ハ開市シテ仙台庄内秋田等ノ客
 商ニ拂出スヲ得タリ故ニ客商ノ來ルハ皆盛岡ニ限リテ此ヨリ與ニ入ルヲ許サスソノ間法甚嚴ナリ當時
 盛岡ノ唱ニハ沼宮内ヨリ北ヲハ凡テ與トイフ福岡ヨリハ中與トイフ五戸ヨリハ北トイフ小繋ニ關門ヲ
 設ケ同領民ニテモ馬ヲ引過ルニハ切手ナケレハ一切通リ出ルヲ許サス況ンヤ客商ヲヤソノ客商ノ自由
 ニ入り來テ何レノ競賣場ニモ勝手ニ臨ムヲ得シモノハ維新ノ始ヨリ開ヒタルモノナリ

競賣場ヲ始メ金錢出納ヨリ凡テ民有馬ニ係ル取扱ハ其所ノ代官ニテ任シタリ開市ノ時ニ臨テ盛岡ヨリ
 出張ノ役々ニハ目付一人牛馬改役一人鑒定ノ馬喰二人外ニ御用馬鑒定一人ナリ場所ニテハ立合代官一
 人所ノ牛馬役二人或ハ三人馬肝煎同斷等ナリ但シソノ役員モ追々ニハ増加セリ盛岡ヨリ來レル役人ニ
 ハ定祿定給アレトモ所ノ牛馬役馬肝煎等ニハ二歲駒一頭ニ付錢一文或ハ二文(一文ハ今ノ一厘)ツヽ惣
 馬ノ頭數ニ配當シ乗金ノ内ヲ以テ給セシナリ故ニソノ給料ハ多寡毎ニ不定ナリ

南部家管領中三十三ヶ所ノ代官アリテ競賣場ハ凡テ二十六七ヶ所ナリ但シ二ヶ所ヲ一場ニ合セタルモ
 アリテ然ルナリソノ中最盛ナリシハ五戸七戸ノ二場ナリ秀逸最モ多クシテ名聲ヲ占メタリソノ時三本

二歳駒年々三
千頭餘

開市ノ連絡ア

木ニハ未タ市場ヲ設ケヌ安政年中ニ新渡邊傳ノ開起ヨリ新三本木ハ一ノ村落トナレタ先ニ南部美作守七戸侯ニハ内分高ニテ采地ハナカリシカ分割シテ土地ニテ賜リシハ明治二年ナリソノ時ニ矢神中掟法量三本木等ノ村々ハ七戸代官下ヨリ百石犬落瀬澤田等ノ村々ハ五戸代官下ヨリ數ケノ村々ヲ合セテ一場ノ競賣ヲ開キ此ヨリ三本木モ亦盛ナル中央トナレリソノ中ニモ尾駁倉内等ハ七戸組ニ戸來又重等ハ五戸組ニ木崎牧ノ三澤邊ハ三本木組ニ屬シ皆人々指目スル所ノ産地共ナリ

二歳駒ノ出高ハ今ソノ概略ヲ述ルニ七戸五戸ノ三本木ニ分割ナキ前ハ共ニ千頭前後ツツハ出テシナラシ田名部ハ三百頭前後野邊地ハ百頭餘三戸ハ三百五六十頭位ナラン歟八戸ハ一藩別派ナリシカソノ馬數ハ亦三戸ニ次ントスル位ニテアリシナラン

開市ノ次序ハ年々一定ニ相連リ田名部野邊地八戸三戸五戸トス此ハ自ラ客商ノ便宜ニ因レルナリ五戸了テ中間十五日ヲ隔テ三本木ヲ開キ七戸ニ移ルナリ客商ノ便宜ニ田名部始メヨリ買取タル二歳駒ヲ引出シ莊内秋田山形仙台福島等ノ各市場ニ賣出ス間ノ餘日ヲ欲スルアルカ爲メナリ自然ニ北ヨリ南ニ連絡シ白河ニ貫キテ白河ヲ奥州第一繁盛ノ市場トス往年ヨリ自然ニ此勢ヲ成セリソノ際ニ各所ノ馬商ハ買テハ賣リ賣テハ買フ囊中自ラ重ヲ加ヘ而ル後ニ三本木七戸ニ來リ又上等馬ヲモ擇買得ルノ資力ヲ添ルモノアルカ如シ年々此ノ如クニシテ各互ニ豫算アリテ客商ノ便宜ヲモ謀リ地本ノ便モ考ヘ多年主客相信シタルヨリ成來リタル方便ナリ故ニ偶客商ノ囊相續カサルモ地本役所ハ其人ヲ信スレハ一時之ヲ借スモ敢テ意トセサリシナリ七戸市場ハ最後ニシテ之ヲ了ルノ日ニハ年々必ス雪ヲ踏マニ至リシナリ

因ニ云市場連絡北ヨリ南シ續テ白河ニ至ルノ便ハ仙台ソノ外ニモ懇ニ周旋セシ人アリ各藩相鎖ノ關ヲ破リ此形ヲ成シタルナリト或人ノ説ナリ余ハ未タ其委細ヲ聞得ザレドモ封建時代ニアリテ稱スベキ美譽ナリトス

試ニ此ニ競賣市場ノ景況ヲ述フベシ市場ニ馬商アリ素人アリソノ主タル客タル素人タルヲ問ハス自在

競賣市場ノ景況

ニ之ヲ競フヲ得ルナリ市ヲ開クノ日午前毎ニ場ニ出スベキ馬ヲ陳列シ人々ノ見ルマ、評スルマ、ニ任セ午後競場ノ忙シキモ直ニ競得ヲ支ナキ爲メニス此ニ至テ馬商ハ一見誤ラスソノ眼明ナルハ驚クベキナリ時刻到レハ一樽ヲ開キ裂キ鳥賊或ハ生青魚ノ類ニテ大杯ヲ引テ一口ニ之ヲ飲ミ互ニ氣勢ヲ張レリ時ニ呼揚人アリ高聲ニ元代價ヲ唱フ之ヲ端緒トス唱ル辭ニ舊習慣アリ一兩ハ歌語ニテ一分アリトイフハ一兩一分ノコトナリ但シ定例ニテ本代價ハ必スアルコトナレハ自ラ此歌語ヲ用來リシモノナリ更ニ半切アリトイヘハ二朱ヲ加ヘタルコトナリサテ一人一人ニ競テハ増シ増シテハ加ヘ十兩或ハ二十兩三十兩其上何程ニ上ルモ本代價ハ必ス呼揚人ノ見込ニテ極低點ヨリ漸次ニ上ルヲ順序トスルナリ競聲續カス此邊ニ止レリト見ユレハナシヤナシヤ此上ナシヤト再應ニ唱ヘ馬主ノ遺憾ナキヤウニスサテ馬主ニテ承諾スレハ手ヲ拍テ價ヲ定ム手ヲ拍タルヲ治定ノ証トスルハ証券印紙ヲ貼セシト同シ後ニ如何ナル苦情アルモ口ヲ發ク能ハサルナリ只見込アリテ齋用或ハ種用トスル時ハ一分(後ニ一兩トナル)ヲ加ヘテ御用馬トイフ是ハ亦主客共ニ異議スル能ハサルナリ此皆南部家以來ノ舊習ニシテ縣廳ノ承續トナリテモ敢テ變スルコトナシ

因ニ云此競賣市價ハ公場ノ定ムル所ナレトモ主客共ニ或ハ幸不幸ナキ能ハス故ニ馬主ノ望ニ超過シ自ラ驚クモアリ又歸テ竊ニ自ラ悔ユルモノナシトセズ客商ハ眼明ニシテ能見ルモ勢ニ乘スレハ或ハ強爭スルヲ免レス因テ案外ナル失望モナキニ非ス客商ノ失望ハ即チ或ハ馬主ノ幸ニシテ活潑ノ機呼吸ノ間ニ決スルハ其勢尤妙ナルナリ中ニ就テ馬商ノ眼明ナルモノハ瞥見シテ此ハ乘用此ハ駄用此ハ仙台地方ノ好ム所秋田地方ニハ好マストイフ各所ノ賣先ニ富メルモノ最有力ナリ之ヲ要スルニ年々三千頭餘ノ馬ハ此一期ヲ以テ悉ク拂盡シ一人トシテ殘物ヲ引歸ルナキハ此最地方ノ便トスルモノナリ又此ニ通弊モナシトセス馬商相共ニ狎レ私ニソノ價ヲ高低シ又或ハ期ニ先テ自ラ買ヒ場ニ臨テ自ラ之カ價ヲ増シテソノ價高シ或ハ私ニ買ントスル時ソノ主否メハ場ニ臨テ爭ハズシテ價賤シ又或ハ自

競争場ヨリ益
金出ツ

平均五圓十五
錢餘

税金收入ニ付
意見

ラ競争客心ヲ惹キ客敢テ應セス爲メニ自ラ損ニ陥ルモ亦ナシトセス故ニ争ハ七五三ニ區々ナレトモ
公衆ニ在ル聲價ナレバ人々自ラ明ラメヲナシ人ヲ恨ムコトナク自ラ淡然トシテ已ムノミ
南部家ノ御用馬ハ天保弘化頃ヨリ始リ大低定數アリテ五戸組ヨリ十五頭七戸組ヨリ十五頭ツ、擇タリ
此ハ先ニハ九牧場ノ馬ニテ獻馬贈馬乘用馬等ノ入用數ハ濟ミタリシモ追々ニ交際其他入用トモ多端ト
ナリテ不足ヲ生セシ故ニ之ヲ補タルモノナリ後ニハ益入用増ニナリテ藩用ノ都合ニ任セテ定數ヲ立テ
ス且三戸組ヨリモ之ヲ擇ヒシナリ世ニ隨テ馬ノ入用ハ益増セシコト、知ルベシ
先ニ牧場費ト拂代金ト差引不足ノ事ヲ述シカニ歲駒ニ係ル差引モ栗谷川信藏着手ノ頃ハ創立トモイフ
ベキ程ナリシカ此ヨリ盡力シテ一般ノ販路モ開ケ自ラ價ヲ保テルニ至テ定例ノ部金ニテ藩ニ入レハ益
金ハ必ス多ク種馬代ソノ他此ニ付着スル費ヲ去リシモ必ス餘アリシナラン偶明治二年野邊地一馬ノ調
記ヲ見シニ二歲駒惣數百十二頭惣入金五百七十七圓ニシテ四公六民ニ割分ケ三百四十六圓ハ馬主二百
三十一圓ハ公納トス内又九十八圓ハ時ノ種馬代十八圓ハ市場費ニシテ殘百十五圓ハ金ニテ公納トナレ
リ此一例ニテモ二歲駒代金ハ藩ニテハ創立ニハ費セシモ後ニハ其報アルニ至リシニ相違ナカラシサレ
ハ彼ニ不足アルモ此ニハ有益アリテ相補ヒ得ルニ至リシナラン
南部家削封以來競賣市場ノ舊習ハ依然トシテ改ラス改リシハ分金納方ナリ明治二年ノ五月初メテ三戸
縣ヲ置レシ時ソノ出張官ノ取扱中ニ緩メテ五分納ノ割合トナセリ同三年ニ斗南藩ニテ之ヲ承ケ又緩メ
テ四分五厘トセリ八戸七戸二藩ハ猶五分ヲ持セリ弘前黒石ニハ一切此事ナシ同四年ニ一時合併セシ弘
前館八戸等ノ六藩ヲ廢シテ一ノ青森縣ヲ置レタリ然ルニ一管内ニテ一律ナラサル此ノ如シ時ニ菱田權
令ハ新ニ臨マレテ之ヲ改正セン爲メ上伸セラレタリ略ニ曰ニ二歲駒糶拂ノ義元江刺縣(二戸郡ハ江刺縣
ヨリ分ル)八戸七戸斗南藩等ヨリ上ケ地トナレル村々ノ舊法良馬繁殖ノ爲メ種馬ヲ貸渡シ置キ二歲
駒糶拂ノ節ニ八戸ニハ糶駒拂代金例ハ十圓ニ付一圓ヲ元馬代トシテ馬主ニ渡シソノ内十錢ヲ十分一

官民相合シテ
業將ニ與ラン
トス

資金民間ニ入
テ馬品自ラ進

ト唱ヘ公納トシ殘金九圓ノ五分金四圓五十錢ヲ糶駒金ト唱ヘ馬主ヨリ二重ニ取立七戸モ同様元代金五
分斗南ハ同四分五厘ツ、取立ル仕來ニテ此壬申年ハ舊貫ニ仍リ取立テシモ治下一般ニ無之ノミナラス
原稅不條理ニ付一切廢止シ治下一般津輕郡ヲ合セ一頭ニ付キ一錢ツ、ノ取立ニ致度云々ソノ旨令ニハ
父馬貸下ケ法モアリテ收入セシコト故ニ舊法詳細取調申出ツベシ分頭稅ハ採用ナリ難シ云々此以テ沿
革ヲ見ルベキナリ
菱田氏ノ建言モ御採用ナク此時更ニ緩メテ一般ニ三分ツツ納ムルコト、ナリシナリ縣廳へ入ル稅額ハ
前ヨリハ減シタレドモ南部家ノ如ク貢賦ヤ贈答ノ用途モナク只種馬用一偏ノ事トナリシ故ニ三分ノ収
金ハ追々繰越ノ蓄多キニ至リ種馬貸下ケニ勢力ヲ與ヘテ十分ニ精撰セシメ又父馬ノミナラス牝馬ハ固
ヨリ擇フベキコト故ニ上等牝馬ハ成ルベク村々ニ維持シテ他ニ出ササルヤツニ買上タル上ニテ之ヲ村
民ノ望ニ任セテ貸下ケ牝牡共ニ貸下アルコトナレリ且九年十年頃ヨリハ大政府ニテモ内治ニ本ヲ厚
ウスル事ハ大分ニ力ヲ入レ此地方ニ後來ノ業ヲ見込ムハ牧畜ナリトシテ資金ノ貸下ケナトマデモ厚配
セラレ時ノ山田縣令ニハ同ヨリソノ意ヲ體シテ懇ニ保護セラレ蟻渡牧ノ舊址ニ因テ撰畜場ヲ設置シ縣
下第一等ノ牝牡馬ヲ此ニ入レ益産馬事業ノ盛大ナランコトヲ期セラレシハソノ素志ニテ主任ノ屬官モ
精ヲ入ラレシ事アリシナリ
サテ世上ハ日ニ月ニ活潑トナリテ牛馬共ニソノ價ヲ進メ産馬家ニハ稅緩メハ從テ已カ入手金多ク許多
ノ勢力ヲ有シ三十四年頃ニハ管内南部地ニ係ル惣拂馬ノ入金ハ一ヶ年牝牡合セ二十萬圓内外ニナレリ
此時ニ民情爭テ馬産ヲ勵ミ種父ヲ撰フニ精ヲ入レ村々豫メ良馬ノアル所ヲ見得テ此馬ナレハ幾百圓ハ
出スベシト一村ノ内意ヲ決シテ市上ニ出向タリ故ニ種馬ニ價ヲ保チ稱馬取カ競争ヲ始メタリト見レハ
尋常客商ハ口ヲ柑テ傍看セリ三本木七戸ノ市上ニハ五六百圓ナル馬價ハ格別驚キモモストイフ程ナリ
此ハ是皆村方ノ種用馬ナリ此モ曾テ有リシコトナキ相場ナリサテケ様ニ種父ニ精ヲ入ル、時ハ銘々ノ

西洋ニテ種馬
一萬圓以上
限ナシトイフ
ハ同一理ナル
ベシ

所持ノ母ニモ同シク精ヲ入ルルコトハ言ハスシテ知ルベキナリ
其五六百圓ナル馬ハ體格上ニアル價ナリトイハシテ此馬ヲ東京始メ市上へ出シ必ス其價タルヤ保シ難
シサレハ虚價ナリトイハシテ歎虚ニ非ルナリ其價ハ村々ノ種用ニ見込ミ相互ニ競争セシヨリ出來シニテ
必スソノ効能ヲ見得ベキモノナリ何トナレハ一馬ノ良否ハ一村年々ノ產出駒ニ係リ得失顯然大ナルナ
リ苟クモ村民ニ勢力ヲ有セシ上ハ何ソ競情ヲ興サ、ランヤ且縣ニハ繰越分金ノ力ヲ以テ之ヲ保護スル
アル故ニ之カ不足ヲ補テ百圓二百圓ヲ加フトモ一村家々馬頭ニ分配スレハ當時敢テ痛傷ヲ覺サリシナ
リ此ソノ價ヲ生スル由縁ニシテ產馬繁盛ノ地ニ非レハ恐クハ又此ノ如キノ景況ナカラシ
因ニ云貸下馬ノ良否ハ兎角ニ爭ヲ引興シ易キ爲メ初メハ出張官ノ見込ニテ前々產高ノ部割ヲ以テ次
第シテ貸下ケ望人ノ自ラ取捨スルハ許サ、ル事ナリシカ後ニハ之ヲ金ニ割合テ貸下ケ補足ハ村々ノ
自辨スルコトニ改メタリ

此ヨリ先二歲駒ノ市上ニ格別ノ競争ナキ時ハ村民ノ飼立モ尋常ナル事ニテ二歲モソノ時ニ格別ナル秀
逸モ少カリシナリ凡テ地方ニテ生駒ノ成育ハ野放ノ時ニハ固ヨリ母乳ニ依リテ生艸ヲ啖フノミ秋艸野
ニ滿ルノ際ハ出乳モ十分ニシテ駒モ亦序ヲ逐テ成育スルナリソノ際大低六七ヶ月ニシテ霜降艸枯レハ
從テ母駒共ニ衰弱ノ機ニ赴カサルヲ得ス能ク注意スルモノ此ニ至テ早ク舍ニ入レ母駒共ニ厚ク飼ハ最
上ナリ然レトモ時ニハ農時忙シク多クハ舍ニ入ル、ヲ後ニシ一日々々ト延サ、ルモノ無キナリ舍飼ト
ナレハ専ラ手數ヲ要シ每家不充分ニシテ此マテ序ヲ逐ケ成育シ來レルモノ此ニ至テ必ス停滯ノ形アリ
加ルニソノ間六ヶ月ノ長キニ亘リ或ハ豫算外ノ事モアリテ秋マテノ進歩モ一退ヲ免レサル無シトセシ
能ク注意スルモノ此ニ於テソノ飼立ヲ厚ウシ生々止マサレハ馬ノ體格モ自ラ充足整備シテ支障アルコ
トナシ然レトモ多クハ舊習ニ慣レテソノ心付ナク又心付アルモ已カ力及ハザレハ施シ得ス先ツハ先ニ
モ申セシ廐出馬ノ如シトイフ骨立ヲ免レサルモノアリシナリ然ルニ維新後前條種用馬ノ競争アルニ至

馬ノ進退ハ至
ク人造ニアリ

前ニ幼馬發達
ノ度テ述シト
麥看ヲ要ス

テ有力者ハ之ヲ飼立レハ自ラソノ利収アルヲ知リ見込アル馬ハ敢テソノ費料如何ヲ問ハス只ソノ成育
ノミヲ要セシナリ明治十年ノ前後マテハ尾駁村ナトノ二歲ハ大ニソノ名ヲ施シテ重價ヲ占メタルナリ
但シソノ馬多クハ使用馬ナリ追々雜種モ產出スルニ至テ同十三年ノ盛ナルニ至テ乘用種ノ二歲ニ重
價ヲ占メラル、ニ至レリ此ヨリ繼テソノ氣勢ヲ貫カハ地方馬種一新ノ景況ハ見ルベキ事ナリシカ十五
年頃ヨリシテ世上ノ融通大ニ硬塞セシト下ニ起リシ紛議トノ爲メ貸下ケ法モ不都合ナル事トナリ恰モ
將ニ燃ント欲スルノ火ノ中熄ミセシト同シク遺憾ナル事ニテアリシナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ馬ノ成否
ハ專ラ人造ニ因テ進退シ得ヘキモノナリ

因ニ云馬ハ人事ヲ以テ造得ルモノナリ西洋諸方ノ馬即チ是ナリ只ソノ造得ルヤ亦容易ニハ非ルナリ
余カ經驗ニ因テ之ヲ略言スルニ第一ニ其父母ノ全良ナルト食物飼立等ノ事ハ論モ無ク殊ニ胎内ニ母
ノ十分ナル榮養ヲ受ケタルモノハ地ニ陸テ早已ニ異ナル所アリ從テ當歲ヨリ二歲ニ至リ三歲ニ至ル
發達變化ノ勢分ヲ有セル際ハ忽ニスベカラザル又勿論ナリ但シ其際ニ同父母ニテモソノ駒ノ稟授ハ
同カラス早成晩成ノ稟授モ同シカラス之ヲ待ツノ厚薄モ一ナリ難シ歳作ノ豊凶寒暑ノ順否同シカラ
サルモ毎ニ幾分ノ關係ヲ成シ馬モ活物ニシテ之ヲ待ツ人モ活物ナル故ニ前例必シモ後則トナラス件
々ノ事ハ只九方阜其人アリテ能カ取捨ヲ爲セハ逸物ハ益々ソノ力ヲ伸シ廢物モ化シテ逸物トナル
事無トセシ所謂人造ノ至レルモノ其此ニアラン歟

抑南道家以來ノ舊習ハ追々上ニ陳セシ如ク一藩政ノ下ニ成立タルモノニテ此税金ヲ課セシモノノ始メ
人民ノ融通ヲ開キ物産ヲ興サン爲メ厚護ヲ加ヘテ之ヲ待チ人民ハ悅テ之ヲ請願シタルモノナリ馬馬内
一家ノ請願セサルニテモ其他ノ請願セシヲ知ルベシ加ルニ種馬ヲ貸下ケ官地ニ放牧セシムル等ノ保護
ヨリ出シ事ナレハ官ニハ幾分ノ收入ヲ要スヘキノ理由アリテ人民ニモ此ニ對シテ報ヲ謀ルベキノ理由
アルナリ以テ南道家ノ治世ハ過來タリ縣治ニ至テ菱田權令ノ以テ不條理トシ廢止セントセラレシハ一

紛議生シテ分
離團結ノ訴訟
トナル

應ツノ理無キニモ非レトモ其實一地方ニ係ル舊習ノ物産ニ於テ尋常條理ニ拘リテ容易ニ廢止スベカラザルハ勿論ノ事ナレハ此大政府ニテ許可セラレス又舊習ニ因リ寛待ヲ加ヘ三分收入ヲ許シ專ラ産馬事業ヲ皇張セシメラレシ譯ナルベシ然ルニ萬ノ税法改正ニ赴キ此收入金ハ泛然未タ其名義ナシ因テ明治八年ニ産馬仕方金ト改稱シ一種他ニ拘ナキ事業ノ入收トハナリタルナリサテ專ラ種馬用貸下ヲ目的トシ收入費用ハ縣官ニ在テソノ權ヲ握レリ同十二年ニ産馬共會ヲ設ケテ仕方金ノ仕拂ハ此ニ止リ共會ノ委員ヲ撰定シ貸下ノ種馬ヲ始メ財產トナルベキモノハ委員ニ引渡ス事トナリテ帳簿上ニテソノ事モ亦結了シサテソノ事務ハ十七年八月ヲ限リ五ヶ年ヲ期シ縣官ニ委託セリ故ニ縣官ハ毎々出張シテ事務ヲ扱ヒ委員ハ此ヨリ金錢出納ノ權ヲ握リソノ協議ニテ差引セシナリ時ニ人民ヨリ委員ニ托スルノ際用度ノ定額ヲ立テス自ラ定メ自ラ用ユル姿トナリ浪費ニ係レル件々ハ非常ナル事トナリ大ニ一般人民ノ紛議ヲ興シ遂ニ田名部組ニ異見者アリテ訴訟トナリ又三本木八戸組ノ中ニモ異見者アリテ分離ヲ主張スル事トナリ分離組ト團結組トノ訴訟トナリ二萬圓餘ノ産馬ニ使用スベキ金ハ他ノ事故ノ爲メ之ヲ散シ盡シ十七年八月ハ還付ノ期ナルニモ拘ラスソノ一年一月中ニ還付トナリタル時ハ差引一錢ノ餘殘ナキニ至レリ此ニ至レルノ前十六年ノ市場ニハ八戸ニテ紛議ヲ起セシカトタヒハ熄ミ三戸ニテモ又起ラントシテ漸支ヘ遂ニ五戸ニテ破裂シ市場ヲ二ヶ所ニ分チ前例ニ無キ事トナリ出張縣官ノ命令モ行ハレス場内ハ亂レ馬ニ係レル持主及ヒ客商共ニソノ得策ナラサリシコトヲ感セシナリ此時ニ拘囚人ナドモアリテ官ノ裁判ヲ煩スニ至リテ潰亂殆ト極レリトス

此ニ又ソノ源由ヲ推セハ一方ニ煽動者アリ曰産馬ハ私産ナリ官ノ束縛ヲ受クベキモノニ非スト抵抗シテ理否ヲ争ハントスルノ勢ニ赴キノ説早ク已ニ盛岡地方ニ行ハル此一隅ハ固ヨリ已ニ一同藩治ノ下ニ成立セシ事故ニ此地ニ波及スルニ至リシモ自然ノ勢ナキニ非ス然ドモ其實一般人民ノ智慮此ニ進ミタルニ非ス又ソノ論主タルヘキ馬持ニ於テ自ラ感激セル條件アリテ然ルニモ非ス三百年來ノ舊習ニ於

テ一時ニ之ヲ破ラントスルニ主張其人ニ非ルハ上流ノ具眼者ハ大抵ニ之ヲ視サルモノ無ケン故ニ山出縣令ニハ斷然トシテ動かカス此一隅物産ノ爲メ心ヲ碎カレ出京中ニハ夫々ノ意見ヲ上告セラレシヤニモ聞シナリ然ルニ不幸ニシテ病ニ罹リ歸縣ノ數日前ニ至テ空ク志ヲ齎シテ終ラレタリ郷田縣令ニ至テ衆議ニ從テ還付ヲ許サレタリ此ヨリ先ニ田名部ニ係ル第一ノ訴訟ハ解決タレドモ分離團結第二ノ訴訟ハ曾テ解クル事ナク福島縣令ニ至テ之ヲ解カ爲メ懇ニ説解セラレシ終日ナリキ然レトモ終ニ解クス頃クシテ訴訟モ判決セリソノ意ハ凡テ縣廳ニテ取扱來リシ事ヲ至當ナリト見做シタル主義ニテアリシ由ナリ從テ縣令ニハ舊令ニ取捨シテ産馬規則ヲ播布セラレ十七年秋ノ市場ヨリ一般之ヲ守テ施行セリ現行ノ産馬規則即チ是ナリ粉議以來此ニ至ルマテ浪費セシ産馬金二萬圓前後ハ已ニ使盡シテ猶足ラス現ニ民間ニ貸下ケ置キタル良種ノ牝牡馬モ多少引揚ケテ之ヲ賣却シ之カ補ヲ爲スニ至テ竟ニ資産乏キ産馬組トナリ煽動者ノ舉動ハ民間一般ノ馬産ニ於テ大ニ傷害ヲ爲セシノミ加ルニ十四年ノ秋頃ヨリ世上一般ノ硬塞ニ困ミタルハ前ニモ述シ通ニテ僻隅ノ地ニ在テ民力益困病スレハ所有ノ良牝馬モ爲メニソノ手ヲ離ササルヲ得ヌ目下未タ恢復ノ期ヲ見得ル能ハサルナリ嗚乎之ヲ盛大ニ導クモノハ積年ノ勞力ヲ以テスルモ容易ナラス之ヲ破壊スルモノハ一時ノ煽動ニシテ足レリトス畏ルベキ事ナラスヤサテ既往ハ之ヲイフモ益ナシ今ヨリハ人心モ一トタヒ懲悔セルヲ銘シテ幸ニ猶典型ノ存スルアレハ因テテ此ヨリ繁盛ニ赴カン事只管ニ望ム所ナリキ

更ニ參考トナルベキ馬産ニ係レル表ヲ舉ク

明治十年以來青森縣三戸上北下北三郡惣馬表、千位

年	目	牝	牡	合	計
明治十年		四五、二六五	九、七一六		五四、九八五

種目	種目	種目	
		收入	支出
前年度越前	二、六〇八〇 _四	二、四〇二	一、二三九 _四
同十九年	三、二七四	三九、五八五〇 _{二五}	一二〇九一
同十八年	二、八五五	二五、四六〇 _{三二五}	八九一八
同十七年	三、五五九	二二、〇八三 _{四二五}	六二〇五
同十六年	三、〇二一	二七、五二六 _{八七五}	九一一三
同十五年	三、八七二	八九、四五九 _{二七五}	二三一〇 _四
同十四年	三、六〇六	一七二、九九三 _{七七五}	四七四一九
同十三年	三、四七一	一五四、九一六 _{六二五}	四四六三一
同十二年	二、九九〇	九六、四〇二 _{七五〇}	三三二四二
同十一年	三、二二〇	六二、一三八 _{七二五}	一九二九四
同十年	三、三〇五	四四、二〇一 _{六二五}	一三三七四
同九年	三、三九八	三七、五六一 _{八五〇}	一一〇五四

右表中最高點十四年ノ内分表

年目	頭數	代價	平均
同十一年	五〇、六三六	一五、五三六	五六、一七二
同十二年	四六、四〇七	一一、六八九	五八、〇九六
同十三年	五〇、八八四	一六、三六四	六七、二四八
同十四年	五一、二八四	一六、六九〇	六七、九七四
同十五年	五〇、四九四	一六、五七三	六七、〇六七
同十六年	五四、六一一	一八、四九二	七三、一〇三
同十七年	五一、九三八	一九、〇〇一	七〇、四三九
同十八年	三四、一八三	八、四八六	四二、六六九
同十九年	三四、〇九三	九、一四三	四三、二三六

同七年來三郡ノ二才牡馬競賣表

年目	頭數	代價	平均
明治七年	三、三二二 _頭	二二、〇〇九 _{四二五}	六六四五
同八年	三、一八三	三八、八五七 _{六二五}	一二二〇七

本年收入	五、九八六〇七五	種馬買入	三、〇三六五六〇
三歲牡拂	三九六〇〇	賞譽	二五四四二五
貸下馬收入	七〇七九六四	委員常給	一、一一一五〇〇
同三歲牝	五一六六〇〇	馬籍掛	一、七二五五八八
同四歲	三〇五〇〇	種畜場	五一九七三四
不用牡拂	五、二三〇三〇〇	種牡馬飼料	三、〇七二九一六
加償金	一、二九九三五七	獸醫及生徒	二、五二二〇四六
放牧料	一五五二五〇	會議	四三四七
預ヶ金利息	一、四一三五三七	委員臨時費	七、四五六一〇一
合 金	六三、九八七二〇七	事務取扱	七四六五三四
		狼害	一三万〇〇
		唐馬塚	四九〇〇
差引殘繰越	一三、三七六七三三	合 金	五〇、六一〇四八四

右表中十九年各組分細表

組名	科目	頭數	金	高	平	均	最	高	最	低
田名部	田名部	二六三	一、九一六五〇〇	四	七二八七	三七〇〇〇	四	一二五		
野邊地	野邊地	一五三	一、四〇〇五〇〇		九一五三	一六八〇〇〇		二五〇		
三 戶	三 戶	二六七	二、三〇三一二五		八六二五	一六六一二五		二五〇		
八 戶	八 戶	五一四	四、六四三七〇〇		九〇三四	一一一〇〇〇		一〇〇		
五 戶	五 戶	五二五	五、七九七二〇〇		一一一〇六	二五五〇〇〇		四〇〇		
三 本木	三 本木	七七九	九、六三七三七五		一二三七一	三六六五〇〇		二五〇		
七 戶	七 戶	七七三	一三、八八六六二五		一七九六四	三五〇〇〇〇		一〇〇		
合 計	合 計	三、二七四	三九、二八五〇二五		一二〇九一	三六六五〇〇		一〇〇		

右表中雜種

組名	科目	頭數	金	高	平	均	最	高	最	低
田名部	田名部	二回一回退却								
野邊地	野邊地	一	一六八〇〇〇							

曲馬師ノ馬ヲ
作ル如キ亦馴
練シ得ルノ一
証

三	戸	一	一六六一二五				
八	戸	一	一一一〇〇〇				
五	戸	一〇	一、三二一〇〇〇	一三二一〇〇	一三二一〇〇	三〇〇〇〇	
三	本木	三	二、三二七五〇〇	八六二〇四	三六六五〇〇	三三七五	
七	戸	一七	二、七八一一二五	一五四五〇四	三五〇〇〇	一六七五〇	
合	計	五二	六、八六四七五〇	一一八三五八	三六六五〇〇	三三七五	

誌シ訖テ此ニ至リ自ラ感スル所アリテ獨嘆スルコト久シ因テ又筆ヲ續テ以爲ク馬ノ性ハ自然ニ馴練シ得テ人ト一心以テ功ヲ成スベシ我朝ノ馬ニ於ケル救旨牧ヲ開キ從テ貢獻アリ天覽アリ兵ハ國ノ大事己ニ兵ト言ヘハ馬必ス之ニ從フ故ニ常言ニモ兵馬戎馬ト稱ス兵馬司ヲ置キ左右馬寮ノ設アリテ國家ニ係レルヤ此ノ如ク其重ナリ支那ノ古モ之アリ宗廟ニハ毫ヲ齊シ戎車ニハ力ヲ齊シ田獵ニハ尾ヲ齊ウス又六龍四牡ノ駕上駟下駟ノ競争等アリ東洋古曾テ此事アリ而シテ中間相廢シ種類改進ニ意ナキコト久シ之ニ反シテ西洋ニハ改進ヲ事トスル切ニ且懇ナリ人造ヲ以テ種類ノ門ヲ分ツニ至テソノ用益廣ク功益大ナリ而シテ今ニシテ相比較スレハ改進ノ有ト無トソノ品位ノ差我馬ト佛馬ト相離ルヤ四百有餘年前未開品ト相對スルノ評アルニ至レリ余カ獨嘆モ亦是カ爲ノミ而ルニ又余カ經驗ヲ以テスルニ只注意ノ一事アリテ品位ヲ洋良種ニ争フモノ決シテ爲シ難キニ非ルナリ但シ馬ヲ造ルハ難ニ似テ却テ易ク其人ヲ造ルモノ易ニ似テ恐クハ難カラシ鳴乎吾老矣一言以テ此ニ止ル讀者果シテ以テ如何トスルヤ

明治四十二年八月十日印刷
明治四十二年八月廿日發行

(非賣品)

發行者

第二一回
奧羽六縣聯合
馬匹共進會青森縣協賛會

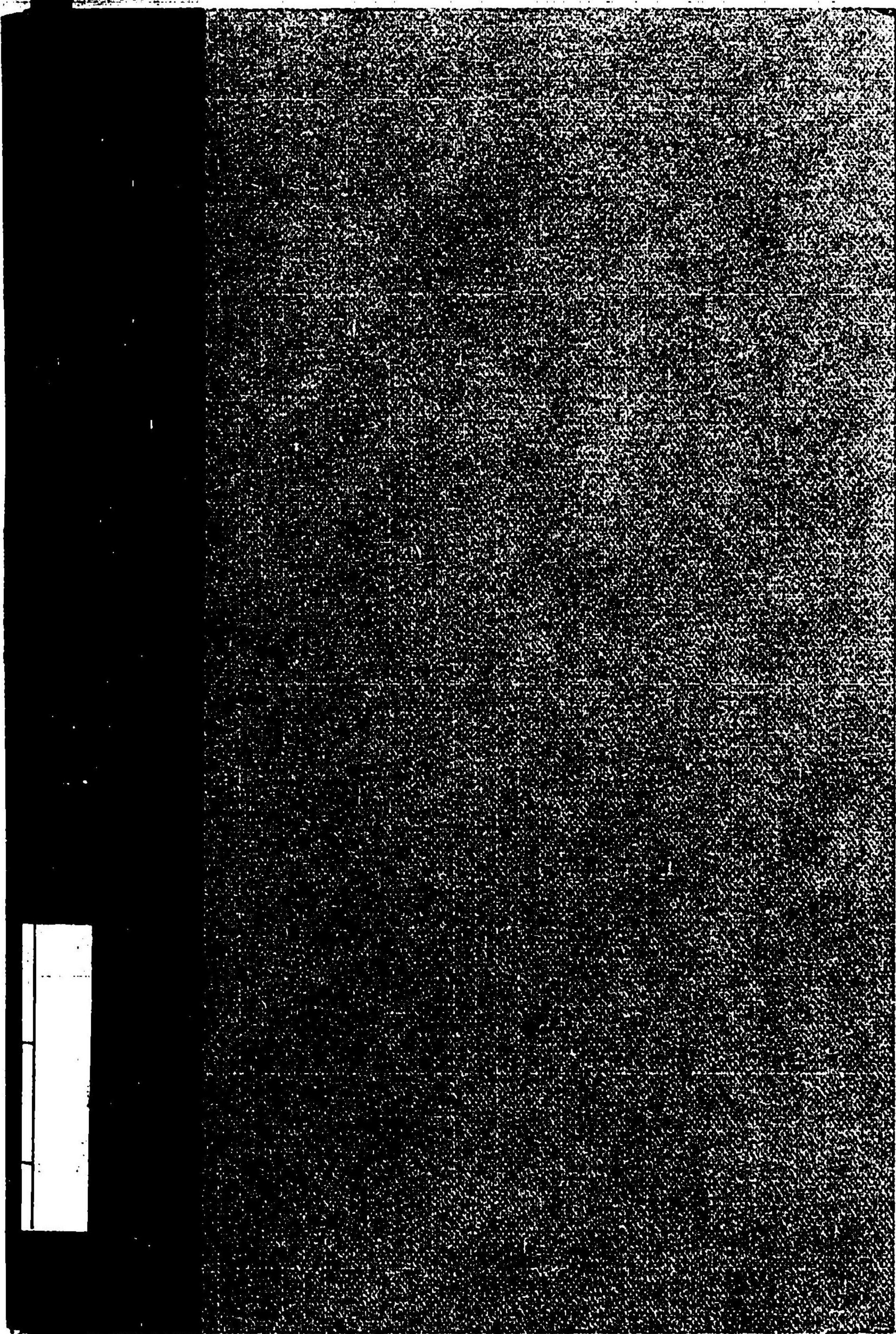
青森市柳町桑田印刷所

印刷者 柴田正吉

TOKYO
店書堂英王
店田神崎店郷本

昭和九年十一月十八日

小牧安貞敬小



奥隅馬誌

国立国会図書館

645.2

H5570

064622-000-4

645.2-H5570

奥隅馬誌

広沢 安任/述

M42

CCD-0034



